

香川県埋蔵文化財調査年報

平成 10 年 度

2000. 3

香川県埋蔵文化財研究会

例 言

1. 本書は、県下における平成10年度の埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
2. 発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡ごとに示し、文化財保護法に関する届出等に一覧表に示した。
3. 本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。
4. 遺跡の配列は原則として、西から東の地域への順とした。
5. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1地形図を使用した。
6. 各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集は文化行政課が行った。

目 次

1. 平成10年度埋蔵文化財保護の動向	1
2. 平成10年度埋蔵文化財保護行政、調査の状況	4
文化財保護法に関する届出等	
Ⅰ 遺跡発見の届出・通知 (57条の5・6)	4
Ⅱ 埋蔵文化財発掘の届出・通知 (57条の2・3)	4
Ⅲ 埋蔵文化財発掘調査の届出 (57条)	6
Ⅳ 埋蔵文化財発掘調査の報告 (98条の2)	8
Ⅴ 開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査	14
Ⅵ 埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況	18
発掘調査の概況	
(1) 丸山古墳	22
(2) 城の岡遺跡	23
(3) 宗吉窯跡	24
(4) 盛土山古墳	26
(5) 旧練兵場遺跡	28
(6) 旧練兵場遺跡群 (彼ノ宗遺跡)	29
(7) 史跡有岡古墳群 (野田院古墳)	30
(8) 山南遺跡	31
(9) 中ノ池遺跡	32
(10) 田村遺跡	33
(11) 史跡丸亀城跡	34
(12) 大東川河口遺跡	35
(13) 城山城跡	37
(14) 烏帽子山遺跡	38
(15) 東原遺跡	39
(16) 西長尾城跡	40
(17) 熊倉池東古墳	42
(18) 椎尾東遺跡	44
(19) 井手上遺跡	46
(20) 平松池窯跡	47
(21) 如意輪寺窯跡	49
(22) 亀塚古墳	51
(23) 鬼無藤井遺跡	55
(24) 香西南西打遺跡	56
(25) 西ハゼ土居遺跡	57
(26) 高松城跡三の丸跡	58
(27) 宮西・一角遺跡	59
(28) 一角遺跡	60
(29) 宗高坊城遺跡	61
(30) 林下所遺跡	62
(31) 木太中村遺跡	63
(32) 平石上3号墳	64
(33) 奥の坊遺跡	66
(34) 史跡天然記念物屋島	67
(35) 尾端遺跡	69
(36) 弁天島古墳群	70
(37) 石田高校校庭内遺跡	72
(38) 森広遺跡	73
(39) 高松廃寺跡	74
(40) 成重遺跡	75
3. 平成10年度財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの発掘調査概況	
(1) 県事業に伴う調査状況	76
(2) 県道関係に伴う調査状況	76
(3) 横断道事業に伴う調査状況	77
(4) 国事業に伴う調査状況	81

1. 平成10年度埋蔵文化財保護行政の動向

1. はじめに

香川県教育委員会では、平成9年度に引き継ぎ、国及び県の各種開発事業の予定地の試掘調査を国庫補助事業等で実施するとともに、小規模な事前の発掘調査を実施した。県教育委員会が実施した試掘調査は27件、事前の発掘調査は7件あるが、ほかに専門職員の配置されていない町において、県教育委員会指導のもと実施した調査が1件ある。

また、大規模な発掘調査と、これに伴う整理作業については(財)香川県埋蔵文化財調査センターに委託し合計32遺跡・2地区で約110,177㎡の発掘調査を実施するとともに、過去に発掘調査を受託した遺跡のうち、11遺跡の整理作業と6遺跡の報告書印刷をおこなった。

一方、市町においては県下全体で27件の試掘調査を実施した。また、発掘調査については、開発事業に伴う事前調査をあわせて33件ある。

2. 埋蔵文化財保護体制の整備

香川県では平成7年度から本格的に始まった四国横断自動車(高松～高松間、津田～引田間)及び、それに伴う各種開発事業に伴う大規模調査が急激な増加傾向を示している。特に東讃地域では、近年道路交通網の整備が急速に進み、流通性を意識したハード面での施設整備事業が増加しており、今後各市町においては、各種開発事業の早期把握に努めると共に、開発事業者との適切な連絡調整体制を早急に整備する必要がある。また、開発事業の増加に伴う調査量の増加については、県・市町教育委員会共に、人的措置を含めての十分対応可能な埋蔵文化財保護体制の確立に努める必要がある。

香川県の埋蔵文化財保護体制は、県教育委員会の埋蔵文化財担当職員3名(専門職2・教員1)、(財)香川県埋蔵文化財調査センターの調査担当職員41名(専門職員21・教員20)の合計44名である。また、市町の埋蔵文化財専門職員については、綾歌町では職員の移動に伴い1名減員となり、国分寺町では同じく職員の移動に伴い1名の配置が計られたことより、全体では昨年同様5市8町配置されている事になる。これに大川地区広域行政振興整備事務組合を含めると、市町の埋蔵文化財専門職員の配置率は46%となる。埋蔵文化財事業の増加傾向の現状でありながら、依然として半分以上の市町に専門職員が配置されておらず、残された課題は多い。

県内の埋蔵文化財専門職員の配置状況

香川県	44名	観音寺市	1名	多度津町	1名
高松市	4名	寒川町	1名	高瀬町	1名
丸亀市	1名	三木町	1名	三野町	1名
坂出市	1名	国分寺町	1名	豊中町	1名
善通寺市	1名	綾南町	1名	大川広域	2名
				合計	62名

3. 開発事業の動向と発掘調査の状況

県下の開発事業については、新規の大規模プロジェクトは、ほぼ減少傾向にあるものの現在進行中の大規模事業及びそれに伴う関連事業はむしろ増加し、埋蔵文化財調査もこの状況の中で、平成8年度から調査量は飛躍的に増加しており、今年度でそのピークを迎えることが予想される。特に、四国横断自動車建設に伴う調査は道路公団からの受託事業で、主に(財)香川県埋蔵文化財調査センターが実施しているが、津田～引田間では工事の本格化と共に発掘調査も並行して進められている現状である。また、サンポート高松整備事業は、香川県と高松市が中心となって進めているJR高松駅前を中心とした土地区画整備事業等も含む大規模な再開発事業であるが、今年度は事業範囲全域を対象とした本格的な試掘調査を実施している。その結果、中世から近世高松城跡に至る遺跡を広範囲で確認しており、次年度以降大規模な調査が実施される予定である。他に国道32号(綾歌・綾南バイパス)及び県・市町道バイパス等についても、用地買収終了後、随時確認調査を実施し発掘調査を行っている。

ただ、こうした大規模開発事業及びその関連事業は、その開発目的・性格も多岐に及び、それに伴う埋蔵文化財保護に係わる事務量は増加の一途をたどっている。今後、このような状況に適切に対処するためには、専門職員の充実・資質向上を含めた緊急の措置が必要である。

4. 史跡等の保存と活用

今年度、埋蔵文化財に係わる新たな国・県の史跡、重要文化財の指定はなかったが、国庫補助事業による史跡整備事業として、善通寺市の国指定史跡有岡古墳群(野田院古墳)、丸亀市の国指定史跡丸亀城跡、高松市の国指定史跡高松城跡(地久櫓跡)の保存整備事業を実施した。また、史跡整備を前提とした確認調査が三野町史跡宗吉瓦窯跡で実施している。

史跡有岡古墳群のうち、野田院古墳の整備事業は、昨年度より開始された事業で、今年度は昨年同様に整備事業の基礎資料を得るために確認調査を実施した。その結果、後円部築造後に前方部が付設された築造工程が明らかになり大変重要な成果になった。

史跡宗吉瓦窯跡では史跡整備に向けて窯跡群の範囲・内容確認調査を実施している。今年度の調査では更に窯跡が1基追加され、合計で17基が確認された事になった。今年度確認された瓦窯跡は、全長11mを測り、国内でも最大級の規模である。

史跡丸亀城跡では、石垣修復に伴う調査を実施している。本年度は三の丸東石垣部分で、石垣解体と解体に伴う調査を実施し、石垣の構築方法を復元する上で貴重な成果を得ている。また、史跡高松城跡のうち地久櫓跡では、石垣修復に伴う保存整備事業を今年度より開始している。

5. 発掘調査の成果

旧石器時代の調査では、高松市中森遺跡の調査がある。この調査では、ナイフ形石器・横長剥片を含む石器ブロックが3個所で確認した。近接する正箱遺跡、中間西井坪遺跡を含めて、当該期平野部における石器消費地の状況を知る重要な成果になった。

縄文時代の調査では、大内町金毘羅山遺跡の早期の玦状耳飾り、高松市多肥・宮尻遺跡の晩期中葉の土器、高松市林・坊城遺跡の晩期末の木製農具等が、いずれも自然河川中より出土している。

白鳥町池の奥遺跡は、弥生中期後半～後期初頭の集落跡である。この遺跡の特徴は石製品の多さで、特に石斧の量は目を見張るものがある。樋端遺跡では、丘陵斜面部より後期の甕棺墓群が検出された。昨年度より継続して調査を実施している成重遺跡は、弥生中期～後期末の竪穴住居跡約40棟検出した。湊川下流域の拠点集落である。また、この遺跡は集落域とほぼ同

時期の、集石墓・方形周溝墓・木棺墓・土器棺墓等の多数の墳墓からなる墓域を合わせて検出した事で注目された。高松市汲仏遺跡では前期前半段階の二重の環濠を検出している。環濠内側では、竪穴住居跡・土坑等を検出し、遺構中からは一括で多量の土器が出土している。同様に鬼無藤井遺跡でも、前期前半から続く二重の環濠及びその内側で竪穴住居跡を検出している。綾南町陶畑遺跡は中期後半を主体とする集落跡である。出土遺物のうち、石鏃の多量の出土及び集落立地を考えると、特異な集落である。綾歌町北内遺跡では、中期前半の木棺墓・土坑等の遺構を検出している。遺構中からは多量の土器が出土しており、当該地域の基準資料になりうる。昨年度から調査が継続している佐古川・窪田遺跡では、前期の方・円形周溝墓の検出数が昨年度より更に追加されており、当該期の集団構成・生活単位を知る上で貴重な成果になっている。

善通寺市の野田院古墳は、前方部が盛土、後円部が積石の前方後円墳である。昨年度から史跡整備のため確認調査を実施しており、今年度までの調査により、後円部築造後に前方部が付設された築造工程が明らかになり大変重要な成果になった。高松市の長崎鼻前方後円墳は昨年度から確認調査を実施している。今年度は主体部の調査を実施し、竪穴式石室より舟形石棺を確認した。大内町では5世紀～7世紀の原間古墳群の調査を実施している。注目できるのは5世紀中頃の原間6号墳である。同古墳は丘陵高所に位置する径30m、高さ3.5mの円墳で、主体部は全国的にも類例が少ない木槨墓の可能性が指摘されている。出土遺物としては主体部中より三累環頭太刀、鉄刀、短甲等が出土している。特に三累環頭太刀は最古の部類に属する資料である。多度津町の5世紀後半の盛土山古墳は、昨年度から範囲確認調査を実施している。昨年度二重の周溝等が確認されているが、今年度は主体部の調査を実施し、箱式石棺の一部を確認した。観音寺市の5世紀後半の丸山古墳では、竪穴式石室内の石棺の調査を実施している。また、集落跡の調査例としては、大内町住屋遺跡、金毘羅山遺跡、綾歌町佐古川・窪田遺跡等の例がある。

丸亀市の田村遺跡は、田村廃寺に隣接する遺跡である。この調査からは、8～9世紀の梵鐘鑄造土坑を検出している。調査範囲の関係で遺構の約半分を調査したにすぎないが、多量の梵鐘鑄型片・古瓦等が一括廃棄された状態で出土し、最底部では梵鐘底の鑄型片が、原位置を保った状態で検出した。藤原京へ瓦を供給したことが判明している、三野町の史跡宗吉瓦窯跡では史跡整備に向けて窯跡群の範囲・内容確認調査を実施している。今年度の調査では更に窯跡が1基追加され、合計で17基が確認された事になった。今年度確認された瓦窯跡は、全長11mを測り、国内でも最大級の規模である。また、古代の集落の調査例としては、引田町川北遺跡、大内町坪井遺跡、高松市正箱遺跡、前田東・中村遺跡、汲仏遺跡等の例がある。

中世の集落の調査例としては、引田町鹿庭遺跡、迹田谷川下池遺跡、川北遺跡、白鳥町成重遺跡、大内町金毘羅山遺跡、高松市前田東・中村遺跡、東山崎・水田遺跡、松並・中所遺跡、香西南西打遺跡、中森遺跡、綾歌町北内遺跡、善通寺市山南遺跡等の例がある。中でも中森遺跡、山南遺跡では中世後半の屋敷跡及び条里地割に伴う溝等が検出され注目できる。中世の城館調査としては、綾歌町の西長尾城跡の測量調査がある。この調査は平成8年度からの継続調査で、徐々にではあるが全体像が明らかになり、中世城館としての評価も高くなりつつある。また、県教委では平成9年度より6ヶ年計画で、中世城館跡詳細分布調査を実施している。本年度は国分寺町以西の所在確認調査及び文献調査を実施している。

近世城郭跡の調査としては、史跡高松城跡の調査がある。高松城跡では、近年西の丸町を中心に大規模な調査を実施し貴重な成果が得ている。今年度は高松藩の家老屋敷に比定される区域の調査が実施された。また、史跡丸亀城跡では、石垣修復に伴う発掘調査を昨年度来実施している。

2. 平成10年度 埋蔵文化財保護行政、調査の状況

文化財保護法に関する届出等

I 遺跡発見の通知・届出 (57条の5・6)

番号	位 置	原 因	発 見 者
1	木田郡三木町大字鹿庭乙48-4	分布調査	三木町教育委員会教育長 小川 和夫
2	綾歌郡綾南町羽床下371-3番地	土木工事中	坂出土木事務所長
3	木田郡三木町池戸3013-2	土木工事中	長尾土木事務所長
4	大川郡津田町津田285番地1地先	土木工事中	香川県大川郡津田町長 三田 文明
5	綾歌郡宇多津町塩浜	土木工事中	坂出土木事務所長
6	木田郡三木町田中730	土木工事中	長尾土木事務所長
7	綾歌郡綾歌町栗熊1535-3	土木工事中	綾歌郡綾歌町長 二神 正國
8	高松市林町2174-1他	土木工事中	高松市長 増田 昌三
9	高松市林町2207-3他	土木工事中	高松市長 増田 昌三
10	国分寺町国分字中西	土木工事中	綾歌郡国分寺町長 津村 文男

II 埋蔵文化財発掘の届出・通知 (57条の2・3)

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	田村廃寺跡	丸亀市田村町1752-1	社 寺 跡	奈良～平安	10教文発第15-1号
2	木太中村遺跡	高松市木太町1618-1他	集 落 跡	弥生、中世～ 近世	10教文発第15-2号
3	西ハゼ土居遺跡	高松市西ハゼ町89-1他	集 落 跡	中世～近世	10教文発第15-3号
4	一角遺跡	高松市林町76番地16	集 落 跡	弥生	10教文発第15-4号
5	鬼無藤井遺跡	高松市鬼無町藤井59-1他	集 落 跡	弥生、平安～ 近世	10教文発第15-5号
6	汲仏遺跡	高松市多肥下町1262番地1	集 落 跡	弥生	10教文発第15-6号
7	山南遺跡	善通寺市生野町山相2881番1他	集 落 跡	弥生～古墳、 中世	10教文発第15-7号
8	大浜遺跡	三豊郡詫間町大字大浜甲1633番地1		縄文～古墳	10教文発第15-8号
9	林下所遺跡	高松市林町字下下所2122番地他	集 落 跡	弥生	10教文発第15-9号
10	田村遺跡	丸亀市田村町字道東1773-2他	集落跡、社寺跡	弥生、奈良～ 平安	10教文発第15-10号
11	町代遺跡、町代 2号墳	仲多度郡満濃町大字長尾字上田1916他	古 墳	古墳	10教文発第15-11号
12	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥字谷1164-2外	集 落 跡	弥生～中世	10教文発第15-12号
13	香川県条里B～D地区、東山崎 ・水田遺跡、前田東・中村遺跡	高松市檀紙町ほか	集落跡、条里跡	旧石器～近世	10教文発第15-13号
14	丸山遺跡	綾歌郡宇多津町字青ノ山3791番	散 布 地	中世	10教文発第15-14号
15	陶畑遺跡	綾歌郡綾南町大字陶字陶畑4437番地他	集 落 跡	弥生	10教文発第15-15号

発見日	遺跡の種類	遺跡の時代	指導内容	香川県文書番号・日付
平成10年4月12日	古墳	古墳	現状保存	10教文発第16-1号 平成10年4月22日
平成10年6月3日	集落跡	弥生・奈良・中世	発掘調査	10教文発第16-2号 平成10年7月14日
平成10年7月13日	集落跡	弥生	発掘調査	10教文発第16-3号 平成10年7月29日
平成10年7月15日	集落跡	弥生	慎重工事	10教文発第16-4号 平成10年8月26日
平成10年8月16日	散布地	中世・近世	立会工事	10教文発第16-5号 平成10年9月22日
平成10年9月4日	集落跡	古墳	発掘調査	10教文発第16-6号 平成10年10月29日
平成10年11月10日	散布地	中世	立会工事	10教文発第16-7号 平成10年12月25日
平成10年11月25日	散布地	弥生・近世	発掘調査	10教文発第16-8号 平成10年11月26日
平成11年1月27日	散布地	古墳	発掘調査	10教文発第16-9号 平成11年2月22日
平成10年11月9日	生産遺跡、瓦窯跡	平安	発掘調査	10教文発第16-10号 平成11年3月23日

事業目的	事業主体	事業面積	事業期間	指導内容
住宅	株式会社穴吹工務店	270㎡	10・5・1～10・10・31	工事立会
道路	未定	2,200㎡	10・5・1～11・2・28	発掘調査
道路	未定	2,300㎡	10・5・1～11・2・28	発掘調査
特別養護老人ホーム	未定	600㎡	10・10・1～11・10・31	発掘調査
道路	高松市	319㎡	10・4・1～10・7・31	発掘調査
機動隊庁舎	建設省中国地方建設局	5,405㎡	11・1・15～12・3・31	発掘調査
住宅	香川県	8,003㎡	10・10・1～14・3・31	発掘調査
学校	詫間町	253㎡	10・10・1～11・3・31	慎重工事
墓地	高松市	632㎡	10・5・1～10・5・31	発掘調査
道路	香川県	1,200㎡	10・5・27～10・8・31	発掘調査
土地区画整理	満濃町土地改良区	950㎡	10・5・7～10・8・31	発掘調査 慎重工事
道路	白鳥町	400㎡	10・10・1～10・12・30	発掘調査
道路	建設省四国地方建設局	22,000㎡	2・6・14～15・3・31	発掘調査
鉄塔建設	四電産業株式会社	100㎡	10・10・5～11・1・31	工事立会
宅地造成	株式会社新日建開発	16,037㎡	10・7・1～10・8・31	発掘調査

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
16	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東字東原甲1365-1外	集落跡	弥生～古墳、中世	10教文発第15-16号
17	中の池遺跡	丸亀市金倉町道上994-1他	集落跡	縄文～弥生	10教文発第15-17号
18	香西南西打遺跡	高松市香西南町地内	集落跡	弥生、平安～近世	10教文発第15-18号
19	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	集落跡	弥生～古墳	10教文発第15-19号
20	亀塚古墳	高松市勅使町355	古墳	古墳	10教文発第15-20号
21	旧練兵場遺跡	善通寺市弘田町1819-1地～善通寺市中村町1-5-1地	集落跡	弥生	10教文発第15-21号
22	盛土山古墳	仲多度郡多度津町奥白方	古墳	古墳	10教文発第15-22号
23	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1丁目1-2	集落跡	弥生～古墳	10教文発第15-23号
24	椎尾東遺跡	綾歌郡綾歌町岡田東1247-3	集落跡	弥生～古墳	10教文発第15-24号
25	城の山跡	三豊郡詫間町栗島3134	城館跡	中世	10教文発第15-25号
26	川北遺跡	大川郡引田町小海字川北1022-1他	集落跡	奈良～平安	10教文発第15-26号
27	森広遺跡	大川郡寒川町石田東字東原甲1321-3	集落跡	弥生～古墳	10教文発第15-27号
28	烏帽子山遺跡	坂出市加茂町字烏帽子山1693番	散布地	弥生	10教文発第15-28号
29	宮西・一角遺跡	高松市林町字宮西6-5番地他2筆	散布地、集落跡	弥生、中世～近世	10教文発第15-29号
30	田村遺跡	丸亀市田村町1173番地他	集落跡	弥生、奈良～平安	10教文発第15-30号
31	中戸遺跡	大川郡白鳥町白鳥字中戸1503番地ほか	集落跡	弥生、奈良～平安	10教文発第15-31号
32	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥字成重2125-1他	集落跡、その他の墓	弥生	10教文発第15-32号
33	出晴遺跡	綾歌郡綾上町粉所東字田万	集落跡	中世	10教文発第15-33号
34	宗高坊城遺跡	高松市林町1490-1外他先	散布地、集落跡	弥生～中世	10教文発第15-34号
35	田村廃寺跡	丸亀市田村町1758番地	社寺跡	奈良～平安	10教文発第15-35号
36	川津六反地遺跡	坂出市川津町六反地2920-1他3筆	集落跡	弥生、平安～中世	10教文発第15-36号
37	タンベ池遺跡	坂出市青海町字小滝	散布地	旧石器	10教文発第15-37号

Ⅲ 埋蔵文化財発掘調査の届出 (57条)

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	弁天島古墳群	小豆郡内海町大字苗羽字沖ノ島甲3-1	古墳	古墳	10教文発第19-1号
2	弁天島古墳群	小豆郡内海町大字苗羽字沖ノ島甲3-1	古墳	古墳	10教文発第19-3号

事業目的	事業主体	事業面積	事業期間	指導内容
学校、その他の開発	香川県	82.5㎡	10・12・1～11・3・15	発掘調査
公園造成	丸亀市	439㎡	10・10・1～11・3・25	発掘調査
道路	高松市	2,740㎡	10・10・20～11・3・31	発掘調査
学校、学生宿舍整備	国立善通寺病院	1,500㎡	10・9・7～11・1・10	発掘調査
水道	文部省大臣官房文教施設部 高松工事事務所	124㎡	10・11・2～10・11・30	工事立会
農業関連	香川県	690㎡	10・11・4～11・3・6	慎重工事
道路	香川県	627㎡	10・11・5～11・3・20	工事立会
河川	香川県	32㎡	10・10・7～11・1・4	慎重工事
ため池拡張及び浚渫	綾歌町	1,631㎡	10・11・4～11・1・29	発掘調査
公園造成	香川県	300㎡	11・1・10～11・3・31	工事立会
道路	香川県	1.1ha	11・4・1～13・3・31	発掘調査
その他建物(集会場)	寒川町	1,000㎡ (221.24㎡)	11・1・4～11・6・30	発掘調査
土砂採取	山樋石材株式会社	6,720㎡	11・1・7～13・12・31	発掘調査
道路	高松市	122.5㎡	10・12・2～11・2・25	発掘調査
その他建物 (銀行ATM)	株式会社 百十四銀行	1,009.90㎡	11・3・15～11・4・30	工事立会
農業関連	香川県	7,000㎡	10・10・6～11・3・4	工事立会
道路	香川県	2,709㎡	11・2・8～13・3・31	発掘調査
農業関連	香川県	39,000㎡	10・9・1～11・3・31	慎重工事
道路	(株)大王工務店	5,300㎡	11・3・1～11・9・30	発掘調査
住宅	大東建託株式会社	836.36㎡ (176.27㎡)	11・2・1～11・5・31	工事立会
道路	香川県	1,000㎡	・ ・ ・ ・	発掘調査
道路	香川県	650㎡	11・2・23～11・3・30	工事立会

事業目的	調査主体	調査面積	調査期間	指導内容
学術調査	徳島文理大学文学部文化財学科	150㎡	10・8・17～10・9・19	慎重に調査
学術調査	徳島文理大学文学部文化財学科	5㎡	11・2・25～11・3・20	慎重に調査

IV 埋蔵文化財発掘調査の報告（98条の2）

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
1	西浦谷遺跡	木田郡三木町大字池戸1628-1, 2	集落跡	弥生	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	三木町
2	一角遺跡	高松市林町76-16	集落跡	弥生	特別養護老人ホーム「さくら荘」増床工事	(法人) すみれ福祉会
3	西ハゼ土居遺跡	高松市西ハゼ町95他	集落跡	中世、近世	都市計画道路木太鬼無線	高松市
4	町代遺跡、町代2号墳	仲多度郡満濃町大字長尾字上田1916他	古墳	古墳	団体営ほ場整備事業（天神地区）	満濃町
5	鹿庭遺跡	大川郡引田町字吉田鹿庭167番地外	集落跡	縄文、中世	四国横断自動車道建設事業	道路公団
6	辻田A・B地区	大川郡引田町引田1122番地1外	散布地	弥生	四国横断自動車道建設事業	道路公団
7	塩屋A・B地区	大川郡引田町引田1番地1外	散布地	古墳	四国横断自動車道建設事業	道路公団
8	池の奥遺跡	大川郡白鳥町白鳥1039番地外	散布地	弥生	四国横断自動車道建設事業	道路公団
9	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥2071番地外	集落跡、古墳、その他	弥生～中世	四国横断自動車道建設事業	道路公団 香川県
10	住屋遺跡	大川郡大内町川東133-1番地外	集落跡	古墳、奈良	県道大内白鳥インター線建設事業	香川県
11	原間遺跡	大川郡大内町川東原間1256番地外	集落跡、古墳	弥生、古墳	四国横断自動車道建設事業	道路公団 香川県
12	金毘羅山遺跡	大川郡大内町水主下屋敷4660番地外	集落跡	縄文～奈良、中世、近世	四国横断自動車道建設事業	道路公団
13	前田東・中村遺跡	高松市前田東町150-1番地外	集落跡	弥生～中世	四国横断自動車道建設事業	道路公団 建設省
14	高松城跡	高松市西内町2-30番地外	城館跡	近世	高松北署建設事業	香川県
15	香川郡条里C地区	高松市勅使町191-1番地外	条里跡	不明	四国横断自動車道建設事業	道路公団 建設省
16	香川郡条里B地区（中森遺跡）	高松市檀紙町1154-3外	不明	不明	四国横断自動車道建設事業	道路公団 建設省
17	馬指地区（北内遺跡）	綾歌郡綾歌町栗熊東1551-8番地外	集落跡	弥生、奈良、平安、中世	国道バイパス建設事業	建設省
18	佐古川・窪田遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊西892番地外	その他の墓	弥生	国道バイパス建設事業	建設省
19	山南遺跡	善通寺市生野町2884-7外	集落跡	弥生、中世	善通寺公営住宅建設	香川県

対 処	調 査 主 体	面 積 (㎡)	調 査 期 間	担 当 者	費 用 負 担	調 査 後 の 措 置 等
事前調査	三木町教委	1,312	10. 1. 5 ～ 10. 3. 8	三木町教委 石井健一	国・県・町	工事実施
事前調査	高松市教委	360	10. 4. 20 ～ 10. 6. 30	高松市教委 大嶋和則	原因者	工事実施
事前調査	高松市教委	2,000	10. 5. 6 ～ 10. 7. 31	高松市教委 大嶋和則	高松市	工事実施
事前調査	満濃町教委	950	10. 5. 7 ～ 10. 8.	綾歌郡綾南町畑田 1664-66 片桐節子	満濃町	工事実施
事前調査	香川県教委	3,800	10. 4. 6 ～ 10. 9. 30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター 長井博志	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	3,000	10. 4. 13 ～ 10. 5. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター 中西昇	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	5,000	10. 4. 13 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター 中西昇	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	8,700	10. 4. 30 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター 西岡達哉	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	9,072	10. 4. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,200	10. 4. 1 ～ 10. 8. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	23,939	10. 4. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	4,000	10. 4. 1 ～ 10. 9. 30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	7,206	10. 4. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	900	10. 4. 1 ～ 10. 6. 30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	2,500	10. 4. 1 ～ 10. 5. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	19,695	10. 4. 1 ～ 10. 5. 29	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	4,925	10. 7. 1 ～ 11. 1. 29	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	1,375	10. 4. 1 ～ 10. 6. 30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	2,700	10. 6. 1 ～ 10. 12. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
20	鬼無藤井遺跡	高松市鬼無町藤井 59-1他	集落跡	弥生、中世、近世	市道鬼無町藤井12号線道路改良工事	高松市
21	山南遺跡	善通寺市生野町字山相 2919-1ほか	散布地	弥生、中世	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	善通寺市
22	木太中村遺跡	高松市木太町	集落跡	弥生、古墳世、近世	都市計画道路福岡三谷線整備事業	高松市
23	林下所遺跡	高松市林町字下下所 2122番地他	集落跡	弥生	四国横断自動車道関連特別用地対策事業	高松市
24	田村遺跡	丸亀市田村町 1745-1他	集落跡、社寺跡	弥生、奈良	県道高松丸亀線建設	香川県
25	井手上遺跡	綾歌郡綾南町羽床下 371-3番他	集落跡	弥生、奈良、中世	県道綾歌綾上綾南線建設	香川県
26	香西南西打遺跡	高松市香西南町 195-2他	集落跡	弥生、平安世、近世	市道香西東臨港線道路改良工事	高松市
27	城山城跡	坂出市西庄町 1519-201他	都城跡	古墳～平安	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	坂出市
28	東山崎・水田遺跡	高松市東山崎町 404-3	集落跡	中世、近世	四国横断自動車道建設事業	道路公団建設省
29	三殿地区遺跡	大川郡大内町三殿 691-1	散布地	その他	四国横断自動車道津田引田間建設事業	道路公団
30	中山地区遺跡	大川郡大内町中山62	散布地	その他	四国横断自動車道津田引田間建設事業	道路公団
31	谷地区遺跡	大川郡白鳥町谷3291	生産遺跡	近世	四国横断自動車道津田引田間建設事業	道路公団
32	松並・中所遺跡	高松市松並町	集落跡	弥生、中世	都市計画道路錦町国分寺綾南線道路改良事業	香川県
33	砂入遺跡	木田郡三木町池戸 3013-2	集落跡	弥生	県道小蓑前田東線道路改良工事	香川県
34	彼ノ宗遺跡	善通寺市仙遊町 2丁目680-223	集落跡	弥生、古墳	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	善通寺市
35	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東甲	集落跡	弥生～中世	石田高校部室増築	香川県
36	東原遺跡	綾歌郡飯山町東小川 131-1, 137-4	集落跡	奈良、中世	団体営ほ場整備事業(大窪谷地区)	飯山町
37	西長尾城跡	綾歌郡綾歌町岡田上 国吉2312-10	城館跡	中世	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	綾歌町
38	陶畑遺跡	綾歌郡綾南町大字陶字陶畑 4435番地1外18筆	集落跡	弥生	坂出市西大浜北4-5-25(株)新日建開発による宅地造成	(株)新日建開発

対 処	調 査 主 体	面 積 (㎡)	調 査 期 間	担 当 者	費 用 負 担	調 査 後 の 措 置 等
事前調査	高松市教委	319	10. 5. 25 ～ 10. 7. 31	高松市教委 山元敏裕	高 松 市	工事実施
試掘調査	善通寺市教委	220	10. 6. 17 ～ 10. 6. 30	善通寺市文京区2丁目1番4号 笹川龍一	国・県・市	包蔵地確認
事前調査	高松市教委	2,700	10. 6. 11 ～ 10. 9. 30	高松市教委 大嶋和則	高 松 市	工事実施
事前調査	高松市教委	632	10. 6. 15 ～ 10. 8. 26	高松市教委 小川賢	高 松 市	工事実施
事前調査	香川県教委	150	10. 6. 30 ～ 10. 7. 17	香川県教委 塩崎誠司	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	100	10. 6. 3 ～ 10. 6. 18	香川県教委 塩崎誠司	香 川 県	工事実施
事前調査	高松市教委	1,755	10. 7. 13 ～ 10. 9. 30	高松市教委 山元敏裕	高 松 市	工事実施
試掘調査	坂出市教委	200	10. 8. 3 ～ 10. 10. 31	坂出市教委 今井和彦	国・県・市	現状保存
事前調査	香川県教委	3,000	10. 7. 1 ～ 10. 9. 30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団 建 設 省	工事実施
事前調査	香川県教委	135	10. 6. 22 ～ 10. 7. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事実施
事前調査	香川県教委	5,566	10. 6. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事実施
事前調査	香川県教委	111	10. 7. 1 ～ 10. 7. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,750	10. 8. 3 ～ 11. 1. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	50	10. 7. 13 ～ 10. 7. 13	香川県教委 西村尋文	香 川 県	工事実施
試掘調査	善通寺市教委	30	10. 8. 17 ～ 10. 9. 30	善通寺市教委 笹川龍一	国・県・市	包蔵地確認
事前調査	香川県教委	90	10. 8. 21 ～ 10. 8. 26	香川県教委 塩崎誠司	香 川 県	工事実施
事前調査	飯山町教委	150	10. 2. 16 ～ 10. 6. 8	飯山町教委 笹岡人志	飯 山 町	工事実施
測量調査	綾歌町教委	12,500	10. 9. 1 ～ 11. 1. 31	元綾歌町教委 近藤武司	国・県・町	現状保存
事前調査	綾南町教委	2,500	10. 7. 16 ～ 10. 10. 15	綾歌郡綾南町畑田 1664-66 片桐節子	原 因 者	工事実施

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
39	丸山古墳	観音寺市室本町字西丸山691番	古墳	古墳	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	観音寺市
40	奥の坊遺跡	高松市高松町地内	散布地集落跡	弥生奈良	高松市東部運動公園（仮称）整備	高松市
41	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町地内	集落跡	弥生、奈良、中世	国立善通寺病院看護学校建設	国立善通寺病院
42	尾端遺跡	木田郡三木町田中尾端	集落跡	古墳、奈良	県道高松長尾大内線建設	香川県
43	川北遺跡	大川郡引田町小海字ッ北1022-1, 2番地他	集落跡	奈良	県道白鳥引田線建設事業	香川県
44	町田地区遺跡	大川郡大内町町田256-1番地他	散布地	古墳	四国横断自動車道建設事業	道路公団
45	林・坊城遺跡	高松市林町1447-1番地ほか	集落跡	縄文、弥生、中世	四国横断自動車道建設事業	道路公団
46	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町1470-1	集落跡	弥生、中世	県道太田上町志度線改良事業	香川県
47	多肥松林遺跡	高松市多肥上町1261-2番地ほか	集落跡	弥生、中世	県道太田上町志度線改良事業	香川県
48	汲仏遺跡	高松市多肥上町1262-1番地ほか	集落跡	弥生、奈良	機動隊舎建設事業	香川県
49	椎尾東遺跡	綾歌郡綾歌町岡田東1247-3	集落跡	弥生、古墳	平成12年度仁池公有水面埋立に伴うため池拡張	綾歌町
50	香西南西打遺跡	高松市香西南町地内	集落跡	弥生、平安、中世	市道香西東臨港線道路改良工事	高松市
51	烏帽子山遺跡	坂出市加茂町烏帽子山1693	散布地	弥生	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	坂出市
52	盛土山古墳	仲多度郡多度津町大字奥白方121番地他	古墳	古墳	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	多度津町
53	八反地遺跡	三豊郡豊中町大字上高野2761	散布地	弥生、古墳、中世	平成10年度埋蔵文化財国庫補助事業	豊中町
54	林下所遺跡	高松市林町2174-1他	散布地	弥生、近世	林町8号線道路改良工事	高松市
55	林下所遺跡	高松市林町2207-3他	散布地	古墳	林町60号線改良工事	高松市
56	宮西・一角遺跡	高松市林町字宮西6-5番地他2筆	散布地、集落跡	弥生、中世、近世	市道林町47号線道路改良工事	高松市
57	樋端遺跡	大川郡白鳥町白鳥1813-1番地外	古墳、その他の墓	弥生、古墳	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道路公団 香川県

対 処	調 査 主 体	面 積 (㎡)	調 査 期 間	担 当 者	費 用 負 担	調 査 後 の 措 置 等
確 認 調 査	観音寺市教委	1,368.59	10. 10. 5 ～ 11. 3. 31	観音寺市教委 久保田昇三	国・県・市	現状保存
事 前 調 査	高松市教委	5,000	10. 9. 14 ～ 11. 3. 31	高松市教委 大嶋和則	高 松 市	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	500	10. 9. 21 ～ 10. 9. 29	香川県教委 西村尋文	国立善通寺 病 院	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	100	10. 9. 4 ～ 10. 9. 7	香川県教委 西村尋文	香 川 県	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	1,120	10. 9. 1 ～ 10. 11. 30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事实施
試 掘 調 査	香川県教委	69	10. 9. 1 ～ 10. 9. 30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	2,000	10. 9. 1 ～ 10. 12. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	4,050	10. 10. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	1,000	10. 10. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	2,500	10. 10. 1 ～ 11. 1. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事实施
事 前 調 査	綾歌町教委	110	10. 11. 9 ～ 10. 11. 11	元綾歌町教委 近藤武司	綾 歌 町	工事实施
事 前 調 査	高松市教委	2,140	10. 11. 10 ～ 11. 3. 31	高松市教委 小川賢	高 松 市	工事实施
確 認 調 査	坂出市教委	100	10. 12. 1 ～ 11. 1. 14	坂出市教委 今井和彦	国・県・市	包蔵地確認
確 認 調 査	多度津町教委	120	10. 9. 7 ～ 10. 12. 13	多度津町教委 岡敦憲	国・県・町	現状保存
確 認 調 査	豊中町教委	521	11. 1. 8 ～ 11. 3. 31	豊中町教委 森裕行	国・県・町	包蔵地確認
事 前 調 査	高松市教委	400	10. 11. 26 ～ 10. 11. 30	高松市教委 小川賢	高 松 市	工事实施
事 前 調 査	高松市教委	200	11. 1. 27 ～ 11. 1. 27	高松市教委 小川賢	高 松 市	工事实施
事 前 調 査	高松市教委	122.5	10. 12. 16 ～ 11. 2. 1	高松市教委 山元敏行	高 松 市	工事实施
事 前 調 査	香川県教委	3,590	10. 11. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団 香 川 県	工事实施

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
58	正箱遺跡	高松市檀紙町正箱 76-1番地外	集 落 跡	縄文 ～奈良	四国横断自動車道（高松 ～高松間）建設事業	道路公団
59	塔の山南遺跡	大川郡大内町川東杖 の端32-1番地外	その他の墓	弥 生	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道路公団
60	東山崎・水田遺跡	高松市東山崎町 406-1番地外	集 落 跡	近 世	四国横断自動車道（高松 ～高松間）建設	道路公団 建設省
61	川津六反地遺跡	坂出市川津町 2861-3番地外	集 落 跡	弥生、古 墳、中世	国道438号線道路改築事 業	香 川 県
62	香川郡条里B地区 遺跡	高松市檀紙町 1573-3番地外	集 落 跡	中 世	四国横断自動車道（高松 ～高松間）建設事業	道路公団
63	香川郡条里C地区 遺跡	高松市勅使町 548-1番地外	散 布 地	奈良、 平安	四国横断自動車道（高松 ～高松間）建設	道路公団 建設省
64	楠谷A地区遺跡	大川郡大内町楠谷地 内		弥 生	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設	道路公団
65	金毘羅山遺跡	大川郡大内町水主下 屋敷4655番地外	その他の 遺 跡	弥 生	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設	道路公団
66	森広遺跡	大川郡寒川町石田東 字東原甲1321-3	集 落 跡	弥生 ～平安	平成10年度山村振興等農 林漁業特別対策事業	寒 川 町
67	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥字 成重2125-1他	集落跡、 その他の墓	弥生、 中世	国道318号道路臨時整備 工事	香 川 県

V 開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査

番号	名 称	所 在 地	原 因	原因者
1	史跡高松城跡	高松市内町	三越高松店別館建築工事	三 越
2	五井池地区	大川郡大川町富田西 1654-1他	土地改良事業	大 川 町
3	林下所遺跡	高松市林町	四国横断自動車道周辺整備事 業	高 松 市
4	鵜部地区	大川郡津田町鶴羽鵜部 1484-1	個人住宅	個 人
5	岡本地区	高松市岡本町	県道千正高松線建設事業	香 川 県
6	奥白方、山階地区	仲多度郡多度津町奥白方片山、 山階阿庄	県道多度津丸亀線道路改良事 業	香 川 県
7	中尾瀬地区	三豊郡詫間町大字詫間字須田 ・中尾瀬、本村中	県道紫雲出山線（須田B P） 建設事業	香 川 県
8	桜町地区	高松市桜町一丁目	保健所建築工事	高 松 市
9	森清地区	大川郡大川町富田中宇森清 537-1他	給水塔建設工事	大川中 部合 開 発 組 合
10	六反地地区	坂出市川津町	国道438号道路改良事業	香 川 県
11	鹿庭四区地区	木田郡三木町鹿庭乙89-1他	創価学会四国メモリアルパー ク建設	創 価 学 会

対 処	調 査 主 体	面 積 (㎡)	調 査 期 間	担 当 者	費 用 負 担	調 査 後 の 措 置 等
事前調査	香川県教委	800	11. 1. 4 ～ 11. 2. 28	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,300	11. 1. 4 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	263	11. 2. 1 ～ 11. 2. 28	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	1,034	11. 2. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	313	11. 2. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	328	11. 3. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 建設省	工事実施
試掘調査	香川県教委	1,000	11. 3. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	35	11. 3. 1 ～ 11. 3. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	寒川町教委	138	11. 1. 18 ～ 11. 2. 2	寒川町教委 山本一伸	寒 川 町	工事実施
事前調査	香川県教委	530	11. 2. 8 ～ 11. 2. 9	香川県教委 西村尋文	香 川 県	工事実施

調 査 主 体	面 積 (㎡)	調 査 期 間	担 当 者	費 用 負 担	調 査 の 結 果
高松市教委	65	10. 4. 16	高松市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認されず
大川町教委	49	10. 4. 16	大川広域 萬木 一郎	大 川 町	包蔵地確認されず
高松市教委	73	10. 4. 20～10. 4. 22	高松市教委 小川 賢	高 松 市	包蔵地確認 平成11年度事前調査
津田町教委	32	10. 4. 27～10. 5. 6	大川広域 萬木 一郎	津 田 町	包蔵地確認されず
県 教 委	200	10. 4. 27	文化行政課 塩崎 誠司	県	包蔵地確認されず
県 教 委	200	10. 5. 18～10. 5. 20	文化行政課 西村 尋文	国・県	包蔵地確認 平成11年度事前調査
県 教 委	250	10. 5. 19～10. 5. 20	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	一部で包蔵地を確認、 引き続き事前調査
高松市教委	4	10. 5. 22	高松市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認されず
大川町教委	8	10. 5. 25～10. 5. 29	大川広域 萬木 一郎	大 川 町	包蔵地確認されず
県 教 委	120	10. 5. 28, 10. 6. 1	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成11年度事前調査
三木町教委	55.58	10. 6. 15～10. 6. 16	三木町教委 石井 健一	(株)大林組	包蔵地確認されず

番号	名 称	所 在 地	原 因	原因者
12	宗高坊城遺跡	高松市林町	都市計画道路福岡三谷線建設工事	高松市
13	高松城跡	高松市西の丸町	サンポート高松整備事業	香川県・高松市
14	香西南西打遺跡	高松市香西南町	高松港頭地区再開発関連事業	高松市
15	本村中地区	三豊郡詫間町大字詫間字須田、中尾瀬、本村中	県道紫雲出山線（須田BP）建設事業	香川県
16	三ノ池地区	綾歌郡飯山町東坂元字三ノ池	中小河川大束川改修	香川県
17	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	国立善通寺病院看護学校整備事業	国立善通寺病院
18	千原大石地区	大川郡長尾町西字千原 2664-2他、前山字大石30	土採取事業	民間企業
19	籠池地区	大川郡引田町坂元籠池	中山間地域総合整備事業（引田南部地区）	引田町
20	高屋地区	坂出市高屋町	県道高松王越坂出線建設事業	香川県
21	浜ノ町地区	高松市浜ノ町	サンポート高松整備事業	香川県・高松市
22	出晴地区	綾歌郡綾上町粉所西	中山間総合整備事業（綾上地区）	香川県
23	富田中地区	大川郡大川町富田中	県道富田中津田線改良事業	香川県
24	西久保谷地区	三豊郡三野町大字大見字東久保谷～西久保谷	県道丸亀詫間豊浜線建設事業	香川県
25	中の池遺跡	丸亀市金倉町946-1他	総合運動公園整備に係る市道建設工事	市開発課 整備
26	砂入地区	木田郡三木町池戸砂入	県道小蓑前田東線改良事業	香川県
27	川東地区	大川郡大内町川東字杖ノ端～小僧	中小河川古川改修事業	香川県
28	栗熊東遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊東字北内	町道馬指・原線道路改良工事	綾歌町
29	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	国立善通寺病院エイズ検査棟建設工事	国立善通寺病院
30	川井地区	綾歌郡飯山町東小川字川井	県道岡田丸亀線建設事業	香川県
31	天王谷地区	大川郡引田町大字小海字天王谷	四国横断自動車建設事業	日本 道路公団
32	奥白方、山階地区	仲多度郡多度津町奥白方片山、山階阿庄	県道多度津丸亀線改良事業	香川県
33	宗高坊城遺跡	高松市林町	都市計画道路福岡三谷線建設工事	高松市
34	文京町2丁目遺跡	坂出市文京区二丁目	坂出高校第2体育館建設事業	香川県
35	下川西地区	高松市六条町	四国横断自動車道周辺整備事業	高松市
36	城山地区	坂出市府中町	香川県水道用水供給事業	香川県
37	白鳥中戸・原地区	大川郡白鳥町白鳥字中戸及び原	県営ほ場整備事業（白鳥上地区）	香川県
38	東中筋遺跡	高松市桜町二丁目	都市計画道路東浜港花の宮線建設工事	高松市
39	葛原・稲木地区	仲多度郡多度津町葛原～善通寺市稲木町	国道11号（坂出丸亀BP）	建設省

調査主体	面積 (㎡)	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
高松市教委	160	10. 7. 3～10. 7. 7	高松市教委 大嶋 和則	国・県・市	包蔵地確認 平成11年度事前調査
県教委	400	10. 7. 30, 31, 8. 3, 5	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成10年度事前調査
高松市教委	40	10. 8. 13	高松市教委 小川 賢	高松市	包蔵地確認 平成10年度事前調査
県教委	250	10. 8. 18～10. 8. 19	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成11～12年度事前調査予定
県教委	100	10. 8. 20	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
県教委	80	10. 8. 28	文化行政課 西村 尋文	国・県	包蔵地確認 盛土保存
長尾町教委	26	10. 9. 7～10. 9. 11	大川広域 阿河 鋭二	長尾町	包蔵地確認されず
引田町教委	75	10. 9. 8～10. 9. 16	大川広域 萬木 一郎	引田町	包蔵地確認されず
県教委	30	10. 9. 9	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
県教委	400	10. 9. 21～10. 9. 22	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成12年度事前調査予定
県教委	150	10. 9. 28	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 盛土保存
県教委	40	10. 9. 30	文化行政課 西村 尋文	国・県	1部に包含層を検出する が、遺構は確認されない
県教委	180	10. 9. 30, 10. 1～ 10. 2	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成12年度事前調査予定
丸亀市教委	120.75	10. 10. 1～10. 10. 2	丸亀町教委 東 信男	国・県・市	遺跡なし
県教委	60	10. 10. 5	文化行政課 西村 尋文	国・県	1部に包含層を検出する が、遺構は確認されない
県教委	150	10. 10. 6～10. 10. 7	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成11年度事前調査
綾歌町教委	434	11. 10. 8～11. 12. 20	綾歌町教委 近藤 武司	国・県・市	包蔵地確認されず
県教委	80	10. 10. 8	文化行政課 西村 尋文	国・県	包蔵地確認
県教委	100	10. 10. 8～10. 10. 9	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
県教委	120	10. 10. 11	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成11年度事前調査
県教委	200	10. 10. 12	文化行政課 西村 尋文	国・県	1部に包含層を検出する が、遺構は確認されない
高松市教委	137.8	10. 10. 14～10. 10. 16	高松市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認 平成11年度事前調査
県教委	70	10. 10. 14	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
高松市教委	65	10. 10. 20～10. 10. 31	高松市教委 小川 賢	高松市	包蔵地確認されず
県教委	40	10. 10. 30	文化行政課 西村 尋文	県	包蔵地確認されず
県教委	150	10. 11. 2, 10. 12. 10	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 盛土保存
高松市教委	19.8	10. 11. 11	高松市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認されず
県教委	150	10. 11. 26～10. 11. 27	文化行政課 西村 尋文	国・県	包蔵地確認されず

番号	名 称	所 在 地	原 因	原因者
40	垂水地区	丸亀市垂水町48-3	変電所建設予定地の遺構確認調査	四国電力株式会社
41	烏帽子山遺跡	坂出市加茂町烏帽子山	採石	山樋建設
42	森広遺跡	大川郡寒川町石田東字東原 甲1321-3	集会場建設	寒川町
43	城の岡遺跡	三豊郡豊中町大字上高野2761	開発計画	未定
44	大道地区	大川郡大川町富田西字大道	保育所建設工事	大川町
45	平石上3号墳	高松市三谷町	民間開発事業	民間企業
46	清水地区	香川郡香南町大字岡字清水	国道193号建設事業	香川県
47	中の池遺跡	丸亀市金倉町958-1他	総合運動公園整備に係る調整池建設工事	市整備課
48	中の池遺跡	丸亀市金倉町1010-1	総合運動公園整備に係る遺構確認調査	市整備課
49	昭和地区	大川郡長尾町昭和字中代乙 559-1他	老人福祉施設用池造成工事	長尾町
50	原間地区	大川郡大内町川東原間	圃場整備事業	大内町
51	史跡天然記念物屋島	高松市屋島東町	屋島寺庫裡改築工事	屋島寺
52	上林地区	高松市林町～由良町	県道中徳三谷高松線建設事業	香川県

VI 埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況

番号	位 置	原 因	事業主体	事業面積	調査内容
1	高松市(室山山頂)	松くい虫防止地上散布に伴う林道設置	県林務課	約700㎡	分布調査
2	小豆郡土庄町豊島	豊島投棄の産業廃棄物の中間処理施設建設	県廃棄物対策課	約69,000㎡	分布調査
3	木田郡三木町井上	農村活性化住環境整備事業	県土地改良課	約600㎡	立会調査
4	坂出市加茂町	県道鴨停五色台線	県道路建設課	約200㎡	立会調査
5	三豊郡詫間町詫間字天満	田地の区画変更工事	個人	約200㎡	立会調査
6	善通寺市生野町	仲多度合同庁舎駐車場拡張	県地方課	約400㎡	立会調査
7	仲多度郡多度津町奥白方	県道多度津丸亀線	県道路建設課	約4,000㎡	立会調査
8	高松市(室山山頂)	松くい虫防止地上散布に伴う林道設置	県林務課	約50㎡	立会調査
9	綾歌郡宇多津町(青の山)	鉄塔建設	四電産業株式会社	約80㎡	立会調査
10	大川郡大内町馬篠	海岸環境整備事業(大内山田地区)	県土地改良課	約8,000㎡	分布調査
11	大川郡大内町三本松	県道大内白鳥インター線	県道路建設課	約2,000㎡	立会調査
12	木田郡三木町井上	農村活性化住環境整備事業	県土地改良課	約600㎡	立会調査
13	大川郡寒川町大末	大川南部地区農道	県土地改良課	約400㎡	立会調査

調査主体	面積 (㎡)	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
丸亀市教委	35.4	10. 12. 2～10. 12. 6	丸亀町教委 東 信男	国・県・市	遺跡なし
坂出市教委	20	10. 12. 5～11. 1. 14	坂出市教委 今井 和彦	国・県・市	1部に包含層を検出する が遺構は確認されない
寒川町教委	80	10. 12. 8～10. 12. 10	寒川町教委 山本 一伸	寒川町	集落跡
豊中町教委	450	11. 1. 8～3, 31	豊中町教委 森 裕行	国・県・市	包蔵地を確認
大川町教委	105	11. 1. 14	大川広域 萬木 一郎	大川町	包蔵地確認されず
高松市教委	18.3	11. 1. 18～11. 1. 21	高松市教委 山本 英之	国・県・市	包蔵地確認 現状保存
県教委	30	11. 2. 3	文化行政課 塩崎 誠司	県	包蔵地確認されず
丸亀市教委	20.5	11. 2. 25～11. 3. 5	丸亀町教委 東 信男	国・県・市	包含層を確認
丸亀市教委	73.86	11. 2. 25～11. 3. 6	丸亀町教委 東 信男	国・県・市	弥生前期の遺物を包含する
長尾町教委	55	11. 3. 18～11. 3. 20	大川広域 阿河 鋭二	長尾町	包蔵地確認されず
大内町教委	65	11. 3. 23～11. 3. 24	大川広域 阿河 鋭二	大内町	包蔵地確認されず
高松市教委	33.2	11. 3. 24	高松市教委 大嶋 和則	国・県・市	包蔵地確認されず
県教委	350	11. 3. 24～29	文化行政課 塩崎 誠司	県	包蔵地確認されず

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
稲荷山姫塚古墳に隣接	県教委・塩崎	10・4・17	工事立会の必要な範囲を指示
水ガ浦、横引遺跡内	県教委	10・4・24 等	現状確認
始覚寺に隣接	県教委・西村	10・4・27 ～28	一部で希薄な遺構面を検出
牛子山遺跡に隣接	県教委・塩崎	10・4・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず
詫間城跡に隣接	詫間町教委 県教委・塩崎	10・4・30	石列状の遺構を検出したが、近世以降のもの と判断された
生野本町遺跡に隣接	県教委・塩崎	10・5・12	埋蔵文化財包蔵地確認されず
盛土山古墳に隣接	県教委・西村	10・5・13	一部で希薄な包含層を検出
稲荷山姫塚古墳に隣接	県教委・塩崎	10・5・18	埋蔵文化財包蔵地確認されず
丸山遺跡に隣接	宇多津町教委 県教委・塩崎	10・5・25	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	10・5・27	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・西村	10・6・10	埋蔵文化財包蔵地確認されず
始覚寺に隣接	県教委・西村	10・7・7	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	10・7・16	埋蔵文化財包蔵地確認されず

番号	位 置	原 因	事 業 主 体	事業面積	調査内容
14	善通寺市上吉田町	都市計画道路片原町線	県都市計画課	約300㎡	立会調査
15	三豊郡詫間町栗島	園地整備	県環境・土地政策課	約200㎡	分布調査
16	高松市木太町	中小河川宮川改修	県河川課	約500㎡	立会調査
17	木田郡庵治町大島	産業廃棄物処理施設建設	国立療養所大島青松園	約20,000㎡	分布調査
18	綾歌郡綾上町北・山田下	農業試験場移転整備	県農業経営課	約180,000㎡	分布調査
19	大川郡引田町塩屋	県道白鳥引田線	県道路建設課	約20,000㎡	分布調査
20	坂出市府中町城山	水道用水供給事業	県水道局	約1,500㎡	立会調査
21	仲多度郡多度津町見立	県道丸亀詫間豊浜線	県道路建設課	約300㎡	立会調査
22	三豊郡三野町大見	県道丸亀詫間豊浜線	県道路建設課	約100㎡	立会調査
23	大川郡大内町別所	城ノ内池改修	県土地改良課	約200㎡	立会調査
24	三豊郡山本町大野	県道込野観音寺線	県道路保全課	約100㎡	立会調査
25	大川郡大川町富田東字北地	急傾斜崩落防止事業	県林務課	約300㎡	立会調査
26	綾歌郡綾歌町岡田東字椎尾	県営農道建設	県土地改良課	約200㎡	立会調査
27	香川郡香川町浅野字飯田原	鉄塔建設	N T T 四国株式会社	約100㎡	立会調査
28	仲多度郡多度津町奥白方	県道多度津丸亀線	県道路建設課	約4,000㎡	立会調査
29	綾歌郡綾南町小野字一里山	西谷池改修	県土地改良課	約350㎡	立会調査
30	大川郡白鳥町成重	国道318号拡幅	県横断道対策総室	約800㎡	分布調査
31	大川郡白鳥町白鳥字中戸	県営ほ場整備事業（白鳥上地区）	県土地改良課	約200㎡	立会調査
32	大川郡引田町	大川東高校グラウンド内整備	県高校教育課	約200㎡	立会調査

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
生野本町遺跡に隣接	県教委・塩崎	10・7・21	一部で希薄な弥生土器包含層を検出
栗島城内に位置するため	県教委・塩崎	10・7・22	工事立会の必要な範囲を指示
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	10・9・25	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・西村	10・10・2	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・西村	10・10・16	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・西村	10・10・22	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため	県教委・西村	10・10・23	一部で希薄な包含層を検出
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	10・10・26	埋蔵文化財包蔵地確認されず
西久保谷遺跡に隣接	県教委・塩崎	10・10・27	埋蔵文化財包蔵地確認されず
城ノ内遺跡に隣接	県教委・塩崎	10・10・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず
道下遺跡に隣接	県教委・塩崎	10・10・29	埋蔵文化財包蔵地確認されず
経塚に隣接	県教委・塩崎	10・11・5	近世墓数基検出
椎尾遺跡に隣接	県教委・塩崎	10・11・10	埋蔵文化財包蔵地確認されず
油山古墳群に隣接	香川町教委 県教委・塩崎	10・11・11	埋蔵文化財包蔵地確認されず
盛土山古墳に隣接	県教委・西村	11・1・11	包蔵層確認し、現状保存を指示
西谷古墳に隣接	県教委・塩崎	11・1・20	埋蔵文化財包蔵地確認されず
成重遺跡内	県教委・西村	11・1・21	試掘予定箇所協議
中戸遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・1・22	埋蔵文化財包蔵地確認されず
沖代水田遺跡に隣接	県教委・西村	11・2・2	埋蔵文化財包蔵地確認されず

発掘調査の概況

丸 山 古 墳

1. 所在地 観音寺市室本町字西丸山691番
2. 調査主体 観音寺市教育委員会
3. 調査期間 平成10年10月5日
～平成11年3月5日
4. 調査面積 32.4㎡
5. 調査担当者 観音寺市教育委員会
生涯学習課 久保田昇三
6. 調査の原因 観音寺市内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

今回の調査では、遺跡の保存と活用を図るための資料を得る目的で、墳丘とその周囲の状況や昭和22年に調査された第1号石室、石棺の残存状況等の確認を行った。

石室については、西側壁、奥壁のみが残存しており、その他については、相当な破壊を受けていることが判明した。残存している部分から、石室の平面形が奥壁側に近づくにつれゆるやかにバチ状に広がる形状であることや、鉄刀が出土した石棺と奥壁との間の空間部の存在がこの石室の特徴であるといえる。また、石棺下層の状況から石室構築過程の最初の段階で、石棺を設置するための台状のステージを構築している状況が確認された。石棺については、蓋が大きく割れ、破損している状況が確認されたが、危惧されていた北側の突起の部分については身蓋ともに良好な状態であった。また、石棺の表面には石棺を製作した加工痕が良好な状態で残されており、加工方法や技術の一端がうかがえる。墳丘については、周囲が大きく削り取られている箇所が多かったが、トレンチ1～3などで葺石が確認された。墳裾については後世のものと思われる溝により破壊を受けているが、周囲の状況から判断するとその付近に求めることができないかと考えられるが、再確認が必要である。

8. まとめ

出土遺物は前述の鉄刀のほか円筒埴輪片が出土しており、5世紀中葉から後半のものであると推定される。今後、遺跡の性格を把握するには、前述の墳丘規模や第2号石室の確認が必要と思われる。

(久保田)



第1図 遺跡の位置（「観音寺」）



第2図 石室・石棺の検出状況



第3図 墳丘と葺石の状況

しろ 城 の 岡 遺 跡

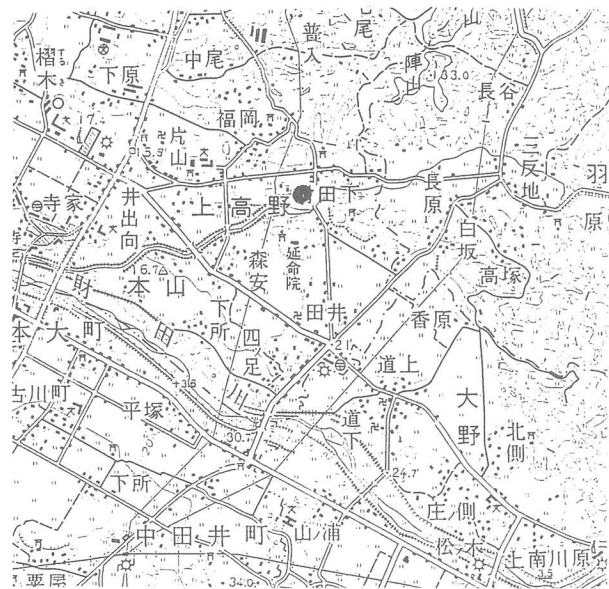
1. 所在地 三豊郡豊中町大字上高野2761
2. 調査主体 豊中町教育委員会
3. 調査期間 平成11年1月8日～3月31日
4. 調査面積 450㎡
5. 調査担当者 文化財担当 森 裕行
6. 調査の原因 開発計画
7. 調査結果の概要

今回調査を予定したのは上高野2761番地で、小丘陵を形成する上部平坦地の一部である。ここに15メートル×16メートルの調査区を2カ所設定し、工事予定地のほぼ全面を発掘した。調査区を設定したのは丘陵上部平坦地の西側である。この小丘陵上部の平坦地からは須恵器片が開墾により多数発見されている。今回の調査による出土遺物のほとんどは表面がローリングされた状態で検出されている。時期については現代から弥生時代にかけてのものである。一部のピットよりローリングされていない弥生土器が検出された。ピットが多数されたが規格できるものはほとんどなかったが、1間×2間の掘立柱の建物が検出された。時期については中世の新しい時期と考えられる。

8. まとめ

今回調査をおこなったところから川をはさんだ小丘陵地には高沢古墳群があるので、その続きに古墳の存在も考えられたし、中世の高野城の関連遺構である可能性も考えられた。特にここには戦国時代には狼煙台がおかれたという言い伝えもある。調査地では表土下はすぐ地山であった。このことから早い時期より開墾等により削平が繰り返されていたことが考えられる。

(森)



第1図 遺跡の位置（「観音寺」）



第2図 掘立柱建物



第3図 出土遺物

むね よし が よう あと 宗 吉 瓦 窯 跡

1. 所在地 三豊郡三野町大字吉津字宗吉
2. 調査主体 三野町教育委員会
3. 調査期間 平成10年4月28日
～平成11年3月25日
4. 調査面積 約258㎡
5. 調査担当者 三野町教育委員会
白川雄一
6. 調査の原因 三野町内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

今年度は調査区を7箇所設定し、トレンチ掘りによる発掘調査を行った。その結果、史跡外に設定した1～6トレンチでは重要遺構の存在は確認できなかったものの、7トレンチにおいて新たに窯体の存在を確認し、17号窯と命名した。検出部分は煙道から燃焼部の一部であると推定され、全長は約11m、最大幅約2mであり、当該期の瓦窯としては極めて規模が大きい。天井部は崩落しているが、床面の遺存状況は比較的良好であると思われる。

出土遺物としては7トレンチにおいて、後世の開墾による攪乱土及び国川池の浚渫に関わると考えられる土層中から古瓦が出土している。また、4トレンチ及び5トレンチからは少量の古瓦と石器類が出土しており、石器類の中には旧石器時代の遺物と考えられるものが数点認められた。

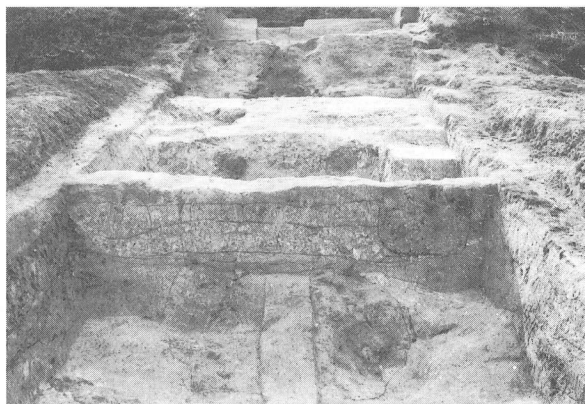
8. まとめ

今回の調査において新たに1基の窯体の存在が判明し、計17基の窯が存在することが確認できている。さらに、17号窯と10号窯の間にも数基の窯体が分布しているものと推定される。来年度は17号窯を全掘し、窯の構造を解明するとともに、さらなる窯体の数の確認、工房跡の確認等が今後の重要な課題である。

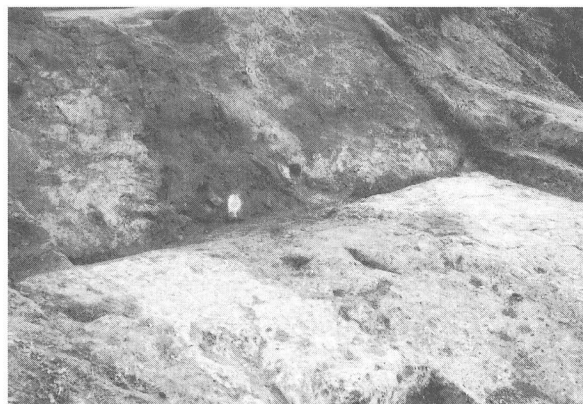
また、今回の調査においては西讃地方では極めて出土例の少ない旧石器類が出土しており、今後の当該地域における類例の増加が期待される。(白川)



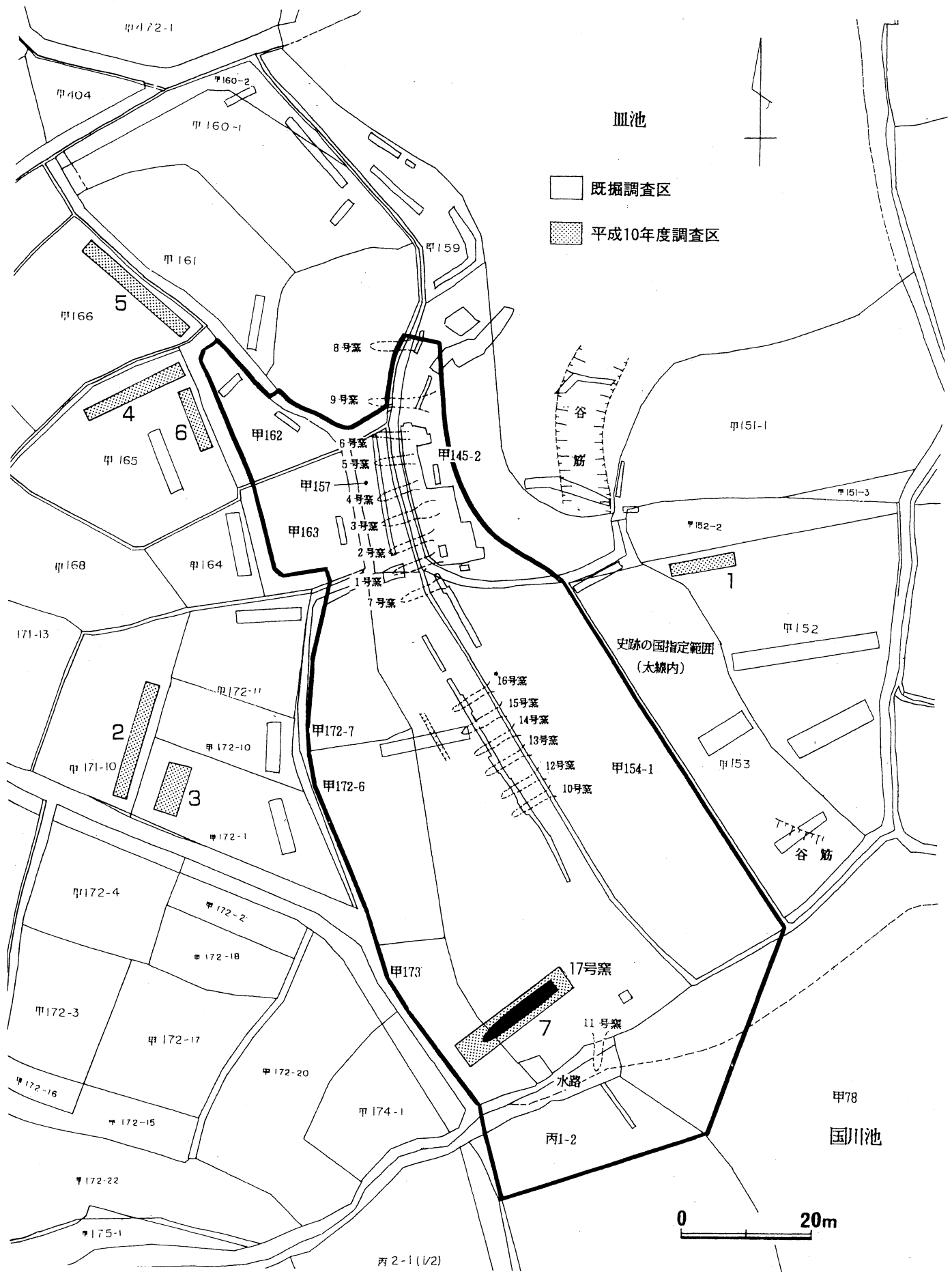
第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 17号窯検出状況



第3図 同煙道部～焼成部検出状況



第4図 トレンチ配置図 (1 : 800)

もり つち やま こ ふん 盛 土 山 古 墳

1. 所在地 仲多度郡多度津町奥白方
2. 調査主体 多度津町教育委員会
3. 調査期間 平成10年9月7日
～平成11年3月31日
4. 調査面積 116.6㎡
5. 調査担当者 岡 敦憲
6. 調査の原因 多度津町内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

本古墳は、大正4年に地元住民によって調査され、主体部であった箱式石棺から四神四獣鏡・勾玉・銅鈴・管玉・鉄刀片等が出土したと町誌等に記録されており、現在、これらの遺物は、東京国立博物館が所蔵している。

なお、本古墳は昭和51年6月29日に県指定史跡となったが、当時の調査記録等は本町には現存しておらず、本古墳の形状等概要を解明して、その保存と活用を図るべく「多度津町内遺跡発掘調査事業」として実施した。

今回の調査を実施するにあたっては、平成9年度の県教委による遺跡範囲確認調査により、①二重の周溝がめぐること②円筒埴輪片等出土遺物から5世紀後半の築造であることがほぼ判明していたが、①二重にめぐると周溝の範囲確認②墳形（円墳か帆立貝式古墳か。2段構築か3段構築かの確認）③主体部（残存していれば、その位置）等の確認を当初の調査目的とした。

トレンチは、周溝部で6カ所、墳丘部で4カ所を設定。周溝部は、遺構面最上層までの掘削にもかかわらず、円筒・器材埴輪片が出土及び須恵器片が若干出土した。出土状況は墳丘に近づくほど密であった。墳丘部は、盛土面（遺構面）までを掘削。当初調査目的とした主体部の位置については、墳丘中央部付近に大正4年時の掘削と思われる攪乱箇所があり、特定することはできなかったものの、墳丘は概ね20～30cmの表土に覆われていることを確認した。なお、県教委の指導により、この攪乱箇所を掘削して主体部の有無を確認することを第2次調査として実施した結果、墳丘中央部から箱式石棺残存部と思われる石材を



第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 調査後全景



第3図 石材出土状況

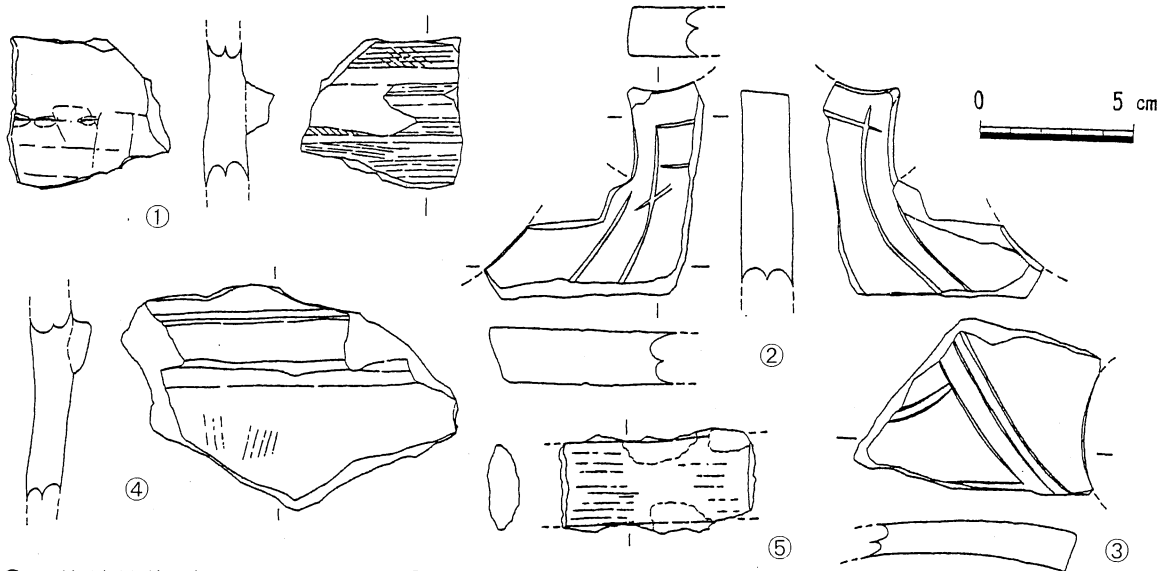
確認。そして、この石材付近から鉄刀片・鉄鏃片が数片出土した。

8. まとめ

県教委文化行政課実施の遺跡範囲確認調査及び今回の調査から、墳丘裾周溝部直径は約43mあり、2重周溝を含む墓域範囲は直径約75mの県内最大級の円墳であることを、再確認した。

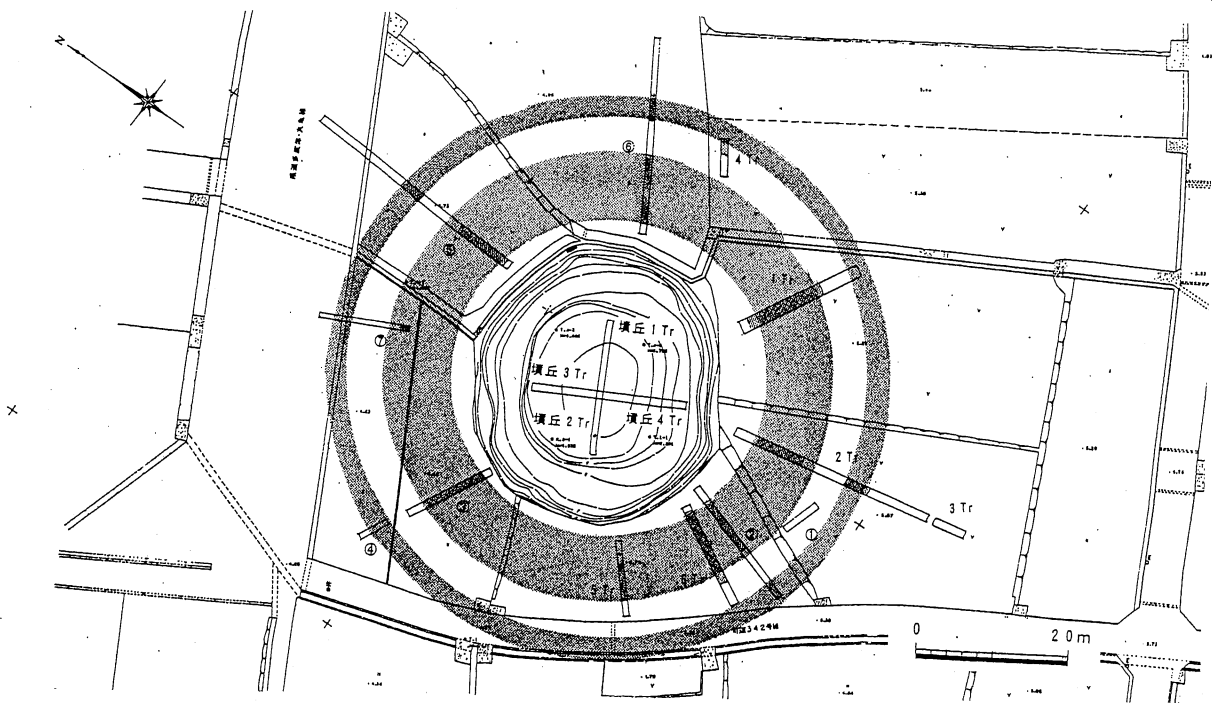
また、出土遺物（埴輪片・須恵器片）から5世紀末の築造としたいが、そのほとんどが包含層中出土遺物であったため、築造年代は若干前後する可能性を残している。

今後これらの遺物等を調査研究し、また、本古墳を調査することにより築造年代を明らかにするとともに、出土した埴輪を研究することにより、香川県における埴輪編年の空白を埋めたい。
(岡)



- ①円筒埴輪片（2トレンチ） ②きぬがさ形埴輪飾部か？（5トレンチ）
 ③器材埴輪片（5トレンチ） ④円筒埴輪片（6トレンチ） ⑤鉄刀片（墳丘1トレンチ）

第4図 出土遺物実測図



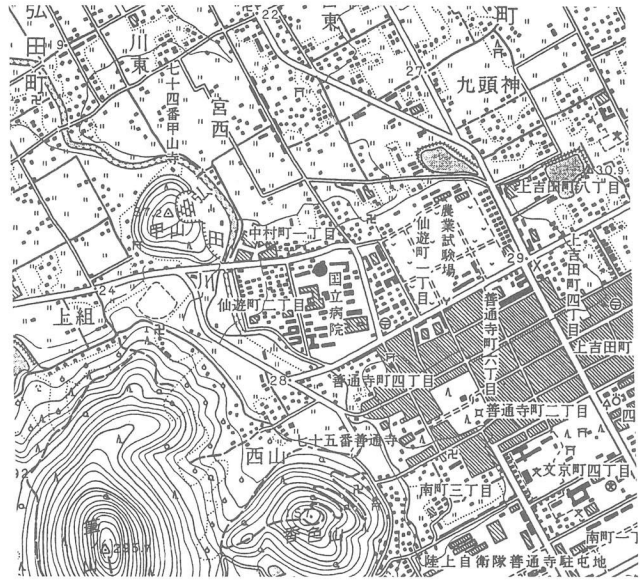
第5図 遺構配置図

きゅう れん ぺい じょう い せき
旧 練 兵 場 遺 跡

1. 所在地 善通寺市仙遊町
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年9月21日
～9月29日
4. 調査面積 30㎡
5. 調査担当者 文化行政課 西村尋文
6. 調査の原因 国立善通寺病院看護学校
整備事業
7. 調査結果の概要

善通寺市の旧練兵場遺跡は、弥生時代中期後半～古墳時代前期前半と古墳時代後期の遺跡で、特に前者は、丸亀平野の中で拠点集落として大規模な拡がりをもつ。遺跡内に所在する国立善通寺病院は、看護学校の建設を計画した。そのため、同工事に伴う事前調査を、平成8～9年度に(財)香川県埋蔵文化財調査センターにより実施している。今年度は県教委により、平成9年度中に計画が具体化しなかった看護学校建設に伴う付帯施設予定地の小規模な発掘調査を実施した。

調査区は看護学校の北辺に位置し、短3m×長10mを測る。地表下1.3mで暗黄灰褐色シルトの遺構面に至り、遺構面上には層厚0.3mを測る弥生～古代の遺物包含層が堆積する。調査区中からは、昨年度の調査区域から続く自然河川を西半部で、小規模な溝2条を東端部で検出した。この自然河川は、北西方向に延る川幅45mを測る幅広な河川で、弥生中期～古墳後期までの遺物を包含している。今年度の調査では、この河川の北岸部の極一部を検出した結果になった。河川の埋土は、淡灰褐色シルトと淡黒色粘土からなり、河床面までの深さは地表面下約2.0mを測る。河床上面からは弥生後期後半の土器が比較的多量に出土した。(西村)



第1図 遺跡の位置(「善通寺」)



第2図 遺構検出状況



第3図 溝状遺構検出状況

きゅうれんべいじょう い せきぐん かけ むね い せき
旧練兵場遺跡群 (彼ノ宗遺跡)

1. 所在地 善通寺市仙遊町二丁目
680—223
2. 調査主体 善通寺市教育委員会
3. 調査期間 平成10年8月～平成10年9月
4. 調査面積 約30㎡
5. 調査担当者 善通寺市教育委員会
笹川龍一
6. 調査の原因 善通寺市内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

当該地は昭和59年の弘田川改修工事に伴い発掘調査が実施された彼ノ宗遺跡調査区西側の造成地である。この辺りは市営のスポーツ施設があり現在は駐車場として利用されているが、施設拡充のための土木工事が計画されつつあり、遺跡の詳細な確認調査が必要な場所である。そこで、二箇所にてトレンチを設定し遺構範囲や旧地形を確認する調査を実施した。

前回の調査区から比較的近い第2トレンチでは地表面下約30cmで遺構面を確認した。部分的に攪乱は受けていたものの、多数の土坑や柱穴を確認できた。出土した遺物から大半の遺構は弥生時代中期のものと思われるが、調査範囲が狭いことからその性格を明確にできるものはない。また、遺構上に遺物の包含層は存在しておらず、遺構の遺存状況から遺構面そのものがかなり削平されていることがわかる。前回の調査区からかなり離れた場所に設定した第1トレンチでは、現地表面から1.3mまで戦時中以降の整地層となっており、弘田川の氾濫原にあたることから遺構は存在していないことが判明した。

8. まとめ

第1トレンチでは予想どおり遺構が密な状態で検出された。また当該地は今では平坦な土地であるが遺構が形成された時は起伏があり、このうち高かった部分は遺構と共に削平されている。第2トレンチ付近は弘田川の氾濫原であり、ここから西には遺構は続かないようである。旧練兵場遺跡群は県下最大級の集落遺跡であり、近年大規模調査が続いていることから、丸亀平野でこの遺跡の果たした役割や成立過程が早く解明されることを期待している。(笹川)



第1図 遺跡の位置 (「善通寺」)



第2図 第1トレンチ設置状況



第3図 第2トレンチ遺構検出状況

し せきありおか こ ふんぐん の たのいん こ ふん
史跡有岡古墳群 (野田院古墳)

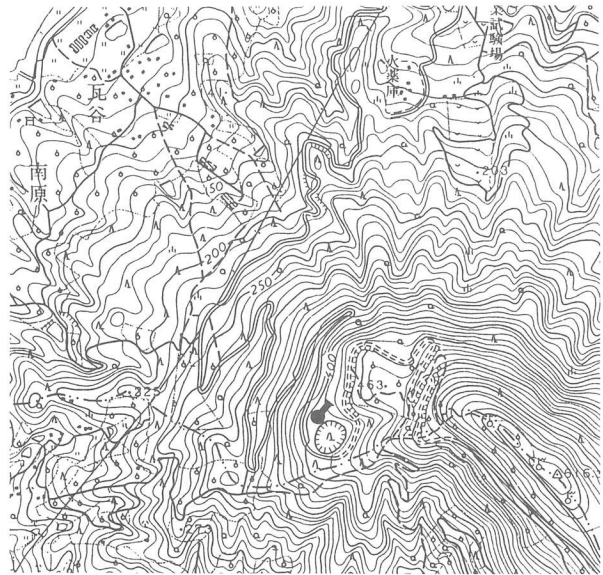
1. 所在地 善通寺市善通寺町2830—196
2. 調査主体 善通寺市教育委員会
3. 調査期間 平成10年10月～平成11年2月
4. 調査面積 約250㎡
5. 調査担当者 善通寺市教育委員会
笹川龍一

6. 調査の原因 史跡有岡古墳群保存整備事業
7. 調査結果の概要

平成9年度からの継続調査である。平成9年度は古墳周囲にトレンチを設定し、墳丘の正確な規模や形状を把握するための調査を実施したが、平成10年度は後円部基底部全体の検出作業と、新たに発見された第二主体部の発掘調査を実施した。墳丘は自然の尾根を平らに削った上に、後円部は全て石材で構築され、その周囲は5～6段(70～80cm)垂直に石垣状に積み上げられていることが判明した。前方部は盛り土をした後に表面に小型の石材を葺いているが、基底部と中段には大きな柱状の石材の列石が見られる。くびれ部では後円部基底部列石が前方部の盛り土の内部にまでもぐり込んでおり、後円部構築後に前方部が造られたことが明らかとなった。後円部墳裾部からは多量の土師器が出土している。第二主体部は盗掘を受けていたものの遺存状況は良好で構築状況が大変よくわかる。ガラス玉・碧玉製管玉・鉄剣片・土師器片が出土し、副葬品などから古墳が発生し始めた時期、発生期(3世紀後半代)であることが判明した。

8. まとめ

古墳発生期の積み石の前方後円墳は讃岐(香川県)を中心に分布しているが、今回のような本格的な発掘調査が最古式の積み石塚で行われ、墳丘構築の様子まで判明したのは初めてのことである。調査により得られた結果は積み石塚の研究上画期的なもので、近畿に分布する古墳とは異なる讃岐独自の古墳であることをより明かにすることができた。今後、前方後円墳の起源や古墳発生期の国内社会の環境などを考える上で大変重要な資料となった。(笹川)



第1図 遺跡の位置(「善通寺」)



第2図 野田院古墳航空写真



第3図 野田院古墳くびれ部の検出状況

やま なみ い せき 山 南 遺 跡

1. 所在地 善通寺市生野町2919—1ほか
2. 調査主体 善通寺市教育委員会
3. 調査期間 平成10年6月～平成10年7月
4. 調査面積 約240㎡
5. 調査担当者 善通寺市教育委員会
菅川龍一
6. 調査の原因 善通寺市内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

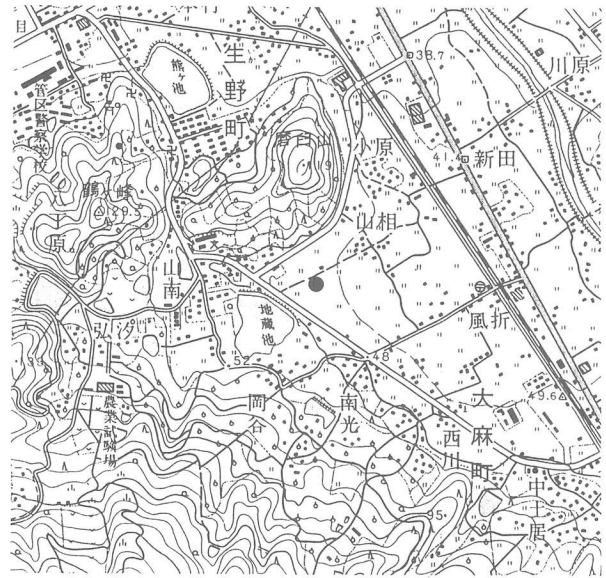
当該地は南から西側が大麻山の北斜面、北が磨臼山と鶴が峰と呼ばれる独立丘陵に挟まれた谷地形の北側緩斜面にあり、標高は42mの位置である。付近ではこれまで遺跡の存在は知られていなかったが、県営住宅の建設に伴う試掘調査で弥生時代から中世頃の遺物の散布や遺構が確認された。この付近では市でも開発の計画があり、埋蔵文化財の確認調査を実施することとなった。そこで対象範囲内

に3本のトレンチを設定し発掘調査を行ったところ、弥生時代前期の土坑・弥生時代中期の遺物の包含層・弥生時代後期の竪穴住居跡と土坑・中世の掘立柱建物跡・近世の配石土坑などが検出された。特に弥生時代の土坑は完形の土器を伴うもので、当時この場所が金倉川の氾濫原に面していたことなどから、祭祀遺構と考えられる。また竪穴住居跡は遺存状況が非常に良く、住居が使用されていた頃のベッド状遺構の構造がある程度確認できた。住居内からは弥生時代後期後半頃の様々な器種の土器が出土しており、これも良好な一括資料である。

8. まとめ

弥生時代以降の生活痕が確認できた。ここは古墳地帯に近接しており古墳時代の生活遺構の検出が期待されたが、意外にも包含層も含めて遺物さえ全く確認することができなかった。この地区での発掘調査は初めてであり、現状では資料が極めて少なく今回の調査で確認された生活域の正確な規模や範囲を知ることは難しいが、弥生各時期の明確な遺物や遺構が確認されたことは、丸亀平野全体を視野に入れての弥生時代の動向を知るうえでは大きな成果であった。

(菅川)



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）



第2図 弥生時代前期の土坑



第3図 弥生時代後期の竪穴住居跡

なか いけ い せき 中 の 池 遺 跡

1. 所在地 ①丸亀市金倉町
①946—1他・②958—1他・
③1010—1・④992—1他
2. 調査主体 ①～③丸亀市教育委員会
④松本考古学研究所
3. 調査期間 ①平成10年10月1・2日
②・③平成11年2月25日
～3月5日
④平成10年12月2日
～平成11年2月6日
4. 調査面積 ①120.75㎡・②20.5㎡・
③73.86㎡・④1,190㎡
5. 調査担当者 ①～③東 信男・④松本豊胤
6. 調査の原因 丸亀市総合運動公園建設工事
7. 調査結果の概要



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）

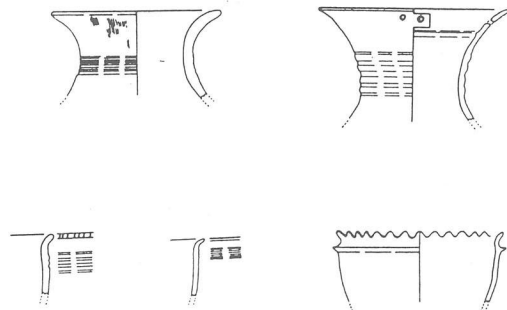
①～④の調査は、平池の北側で行なった。①の調査は西汐入川右岸に沿った箇所ので、遺構の検出はない。②の調査は、平池東堤に接して南北に走る市道の西側で、溝状遺構を検出したが、遺物の出土はなく、遺構面は水田耕作により掘削され、遺構の底部しか残っていない。③は、平池のほぼ中央部にあたる。数条の溝状遺構・柱跡・杭跡を検出した。溝状遺構からは、弥生時代前期の土器片や石器が多く出土した。土器の器種は、壺や甕、鉢がある。石器はサヌカイトの石包丁や削器、石錐が出土している。④の調査は、③のすぐ北側で、検出遺構や遺物についても、③とほぼ同様である。

8. まとめ

平池北側には、弥生時代前期の環濠を持つ集落跡である中の池遺跡がある。この東部は、水田耕作のため地下げが行われ、遺構が消失している。それに対して、この遺跡南側は、果樹園栽培をしていた土地を除くと、遺構の残り具合はよい。③と④の調査は、中の池遺跡の環濠にあたる箇所であるが、今後も追跡調査を行ない、環濠の範囲を探る必要がある。（東）



第2図 遺物出土状況



第3図 出土遺物実測図

たむら いせき 田村 遺跡

1. 所在地 丸亀市田村町字道東1745-1
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年6月29日～7月15日
4. 調査面積 約150㎡
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 県道高松丸亀線改良工事
7. 調査結果の概要

調査地は、古代寺院として著名な「田村廃寺」の北側に位置し、調査地南端部は推定寺域内に位置する。ただ、当寺域については、明確な根拠をもって定められたものではなく、塔心礎の出土及び寺に関する地名からの類推で、推定の域をでるものではない。

今回の調査の結果、調査地全域で弥生時代後期、古代、(7後半～8世紀)、近世の3時期にわたる遺構・遺物を検出している。基本層序は攪乱盛土、黄灰色粘土、灰褐色砂礫層の順で堆積しており、遺物包含層は基本的に所在せず、旧耕作土層直下が遺構面になる。以上のことから、全ての遺構についてある程度削平を被っていることを考慮に入れておかなければならない。

今回検出した遺構で特筆されるものに、調査地南部で検出した1辺約1.7m×1.2m以上の大型の隅丸方形土坑が挙げられる。調査地外にも遺構が広がるため、正確な規模は不明であるが、埋土からは多量の古瓦及び少量の須恵器片、土師器片とともに銅滴、鉄滓、鋳型片、焼石等の鋳造に関連する遺物が多数出土している。鋳型片はいずれも梵鐘のものと判断され、さらに最下層では原位置を保つと思われる梵鐘底の鋳型が検出されたことから同遺構については、梵鐘鋳造遺構の可能性が高いと判断される。梵鐘底の鋳型片から、鋳造された梵鐘の直径は約60cmと推定され、最下層以外の遺物はその堆積状況から、梵鐘鋳造後、一括廃棄されたものである可能性が高い。出土した須恵器片は7世紀末葉～8世紀の時期幅があり、古瓦についてもほぼ同様の時期を示すことから、当該期に同遺構が構築・破棄されたものと推定される。(塩崎)



第1図 遺跡の位置(「丸亀」)



第2図 遺構検出状況(調査地南半)



第3図 梵鐘鋳造遺構(古瓦廃棄状況)

し せき まる がめ じょう あと 史 跡 丸 亀 城 跡

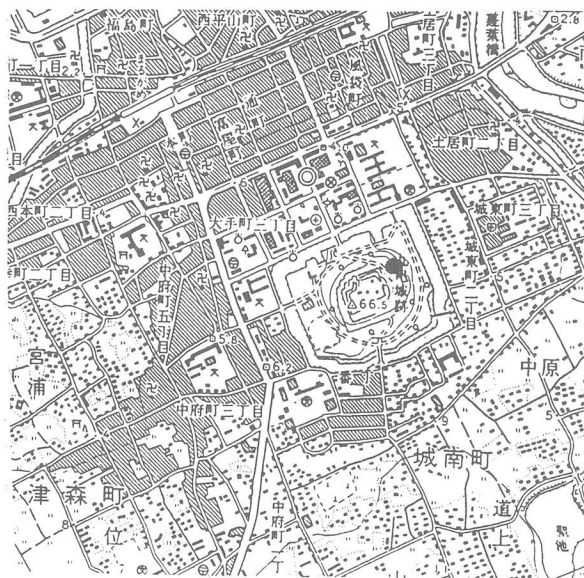
1. 所在地 丸亀市一番丁
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成10年9月10日
～平成11年3月15日
4. 調査面積 約500㎡
5. 調査担当者 東 信男
6. 調査の原因 史跡丸亀城跡石垣修理工事
7. 調査結果の概要

本年度は石垣修理工事中に検出した遺構の調査成果である。昨年度の報告で「栗石を用いた石垣」と報告した石積みは、現在の土木工法にもみられ、「グリハ積み」と呼ばれているので、この呼称を用いる。これは、三の丸石垣東北部の張り出した石垣東面に用いられており、延長約26m、ほぼ鉛直に約5mの高さまで、栗石と盛土の境にやや大きな栗石を用いて、石積みするものである。この石積み工事は、西面の腰巻石垣の修築と合わせて行われている。

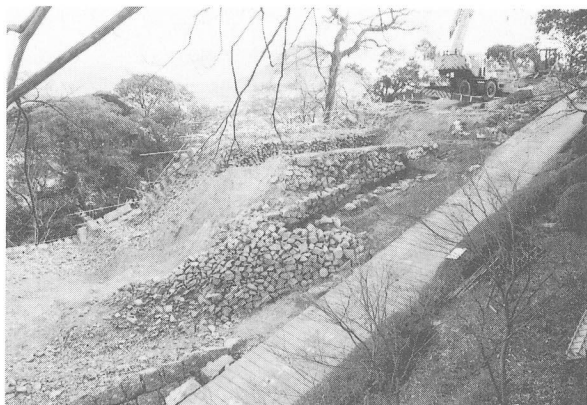
張出し石垣先端部は櫓台となるが、この見返り坂側の石垣内から、腰巻石垣に続く石垣と、その下層から見返り坂に斜交する石積みを検出した。この石積みは高さ約4m、延長9.6m以上あり、石垣内部の栗石上に築かれていることから、石垣構築中に築かれたものである。その目的は、石垣内の盛土補強と搬入路として使用された可能性がある。

8. まとめ

調査の結果次のことを確認した。石垣内の盛土を補強するための「安山岩の石積」が確認された。この石垣は搬入路としても使用された可能性が高い。また、見返り坂側の腰巻石垣は2度修築されている。栗石と盛土の境に「グリハ積み」があるということは、東面の石垣が崩壊するか、修築などの理由で、やり直された可能性がある。三の丸東北部の張出し先端部は櫓台となり、角石には9箇所楔を用いて、隙間調整をしていた。(東)



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）



第2図 安山岩の石積み・腰巻石垣・グリハ積みの石積み（奥）



第3図 角石の隙間調整に用いられた楔

だいそくがわ か こう い せき
大東川河口遺跡

1. 所在地 綾歌郡宇多津町塩浜
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査機関 平成10年8月17日
4. 調査面積 約200㎡
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 中小河川大東川改修事業
7. 調査結果の概要

調査地は、大東川河川内に位置し、現在の海岸線から約1kmほど内陸に入った地点であるが、近世後半段階では、海岸線に作られた高松藩の米蔵とさらに海に向かって半島状に突出した古浜塩田とを繋ぐ突堤状地形に相当し、まさしく当該期においては、調査地が大東川の河口部であったことが伺える。

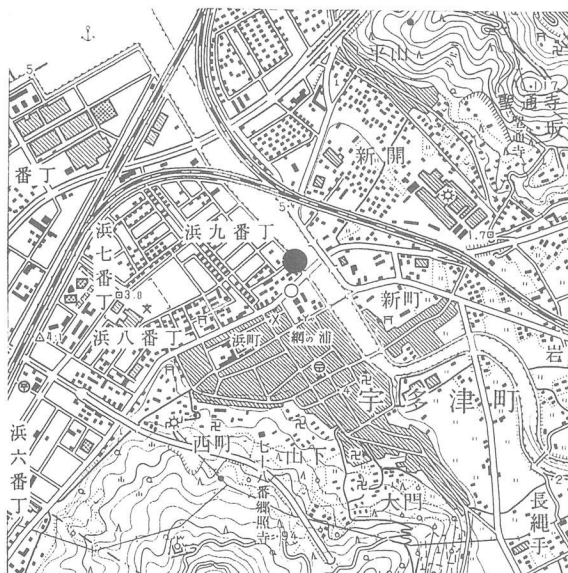
今回の調査は、標記事業の護岸改修に伴う護岸基礎の掘削工事中に江戸時代後半段階の土器片が多量に出土したことから調査を実施したもので、護岸の基底は明治以後に築造された上段の護岸とは異なり、自然石や荒割の石材を平積みで構築しており、近代以降に修復した痕跡が一部で見られるものの、概ね近世後半段階の築造と想定される。

また、護岸に沿って掘削した範囲内の河川内堆積層からは18世紀～近代に及ぶ多量の遺物が出土している。ただ、近代の遺物を除くと大半の遺物は第4図に示すとおり18～19世紀のものである。18世紀は前述した古浜塩田が造成された時期で高松藩米蔵から塩田に伸びる突堤状の地形もこの時期に形成された可能性が高い。今回出土した遺物も以上の動きのなかで、大東川河口部へ廃棄されたものと考えるのが妥当であろう。一方、僅かではあるが、中世期の遺物も少量出土しており、摩滅が著しく流れ込みによる影響を考えなければならないが、中世期の宇多津を知る一資料となるものである。

8. まとめ

調査は、工事の性格が河川内の工事で護岸改修といった、現状の景観を大きく変えるものではなかったため、概ね河川堆積物内の遺物の採集にとどめたが、調査地は高松藩米蔵の所在地に近接しており、周辺部は最近特に市街化が著しいことから、今後の周辺の開発には特に注意を払う必要がある。

(塩崎)



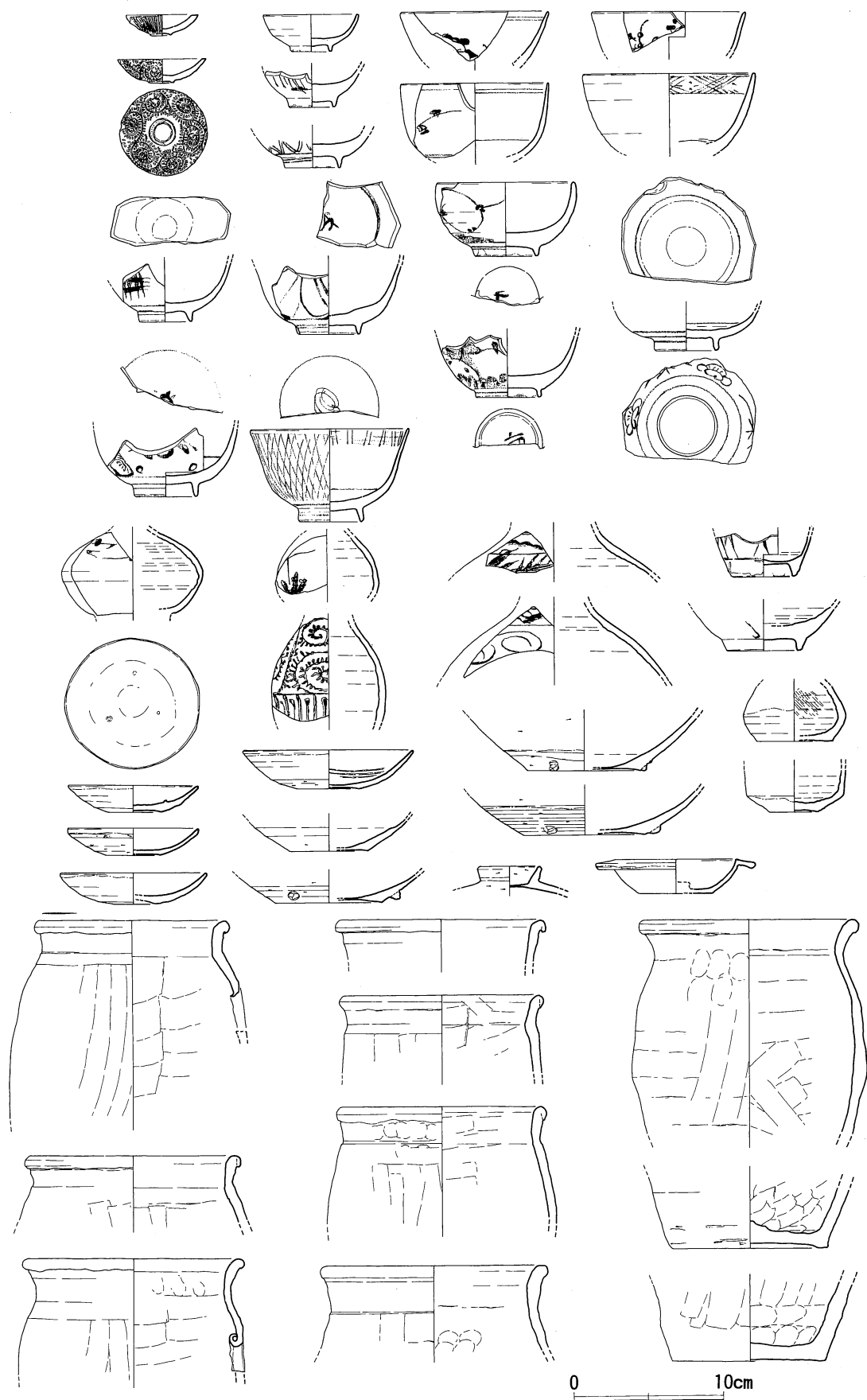
第1図 遺跡の位置(「丸亀」)



第2図 調査地近景



第3図 近世後半段階の護岸検出状況



第4图 出土遺物実測図

き 城 やま 山 じょう 城 あと 跡

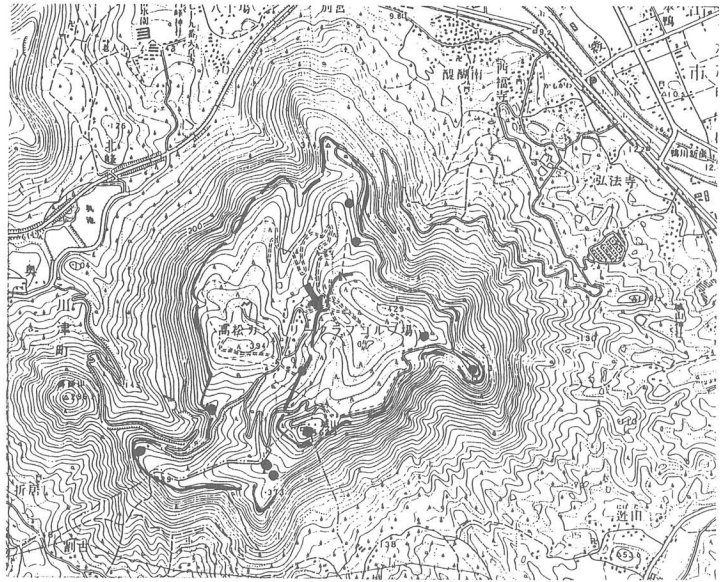
1. 所在地 坂出市西庄町
1519—200、201
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成10年8月3日
～平成11年10月29日
4. 調査面積 約56㎡
5. 調査担当者 坂出市教育委員会
今井和彦
6. 調査の原因 遺跡確認調査
7. 調査結果の概要

史跡城山は昭和26年6月9日に国指定史跡となった古代山城跡である。標高462mの山頂から標高300m付近にかけて高原状となる地形に、西北方向に向けて二重の塁壁が築かれており、内郭は石塁・土塁で築かれ、水口や城門が残り、土塁線付近にはホロン石1対も確認されている。外郭は標高300m付近の傾斜変換点付近に築かれ、サルブチ滝と不動滝の二つの谷筋を含み、明神原の祭祀遺跡やマナイタ石・ホロン石などが残存する。

城山については、福家惣衛氏や川畑由氏などの踏査による研究や遺跡確認が進められて現在に至るが、石塁や土塁線などの実測図は作成されていないことから、城山の基礎資料として石塁の実測図を作成することとした。調査はゴルフ場内の水口部から着手した。水口付近の石塁はゴルフ場の管理道で分断されており、西方は谷部から山手へ登った地点で石塁から土塁へと変化する。この範囲を中心に石塁の実測図作成と石塁基底石の精査を行い、土塁との変換点での断ち割りと土塁基底部の精査も一部実施した。

8. まとめ

水口部は谷部から管理道まで18m程の石塁が直線状に築かれ、1.5～2.5mの高さが残されている。西山手部は長さ約5mが築かれ、谷部の石塁とは150°～160°の角度で明確な折れをもって築かれている。西山手部の石塁と土塁の変換点付近の基底石の精査から、土塁基礎部に安山岩の列石が並ぶことが確認された。城山の土塁線の一部に石が置かれている可能性の指摘はあったが、調査により確認されたのは今回が初めてのことである。この地点だけで山全体の土塁基底石の存在の証明にはならないが、その可能性は一段と高まったこととなる。（今井）



第1図 遺跡の位置（「白峰山」）



第2図 水口部～山手部石塁の折れ状況



第3図 西山手部 土塁基底石

え ぼ し や ま い せ き 烏 帽 子 山 遺 跡

1. 所在地 坂出市加茂町烏帽子山
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成10年12月5日
～平成11年1月14日
4. 調査面積 約20㎡
5. 調査担当者 坂出市教育委員会
今井和彦
6. 調査の原因 採石事業
7. 調査結果の概要

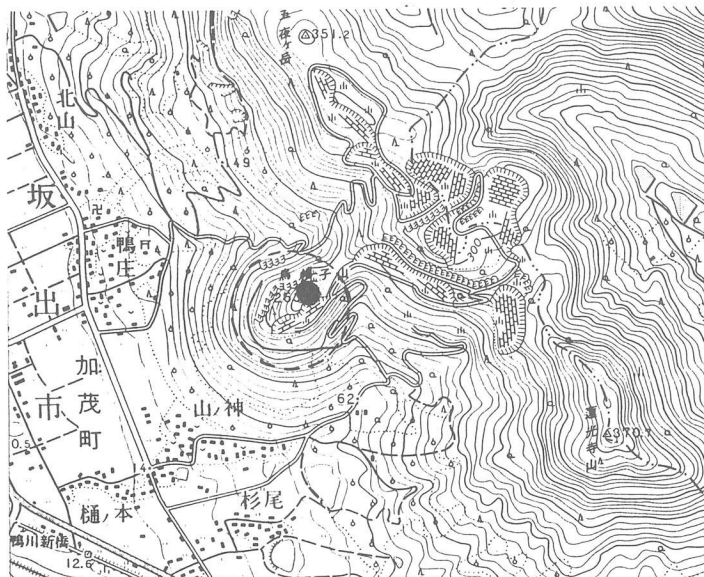
烏帽子山遺跡は、坂出市の東に位置する五色台山塊から派生した標高259.9mの円錐形の烏帽子山山頂に位置する高地性集落遺跡である。昭和初期から採石が実施されてきており、東西に山頂を僅かに残して南北は中腹より抉り取られている。この山頂部が採石により消滅することから、平成5年度に山頂西地区を中心に調査を実施し、弥生中期土器や磨製石斧、サヌカイト製石包丁や石鎌を検出した。但し、山頂部は巨石が多く露出しており調査区は限られたものとなった。山頂中央部から東は崖面となっており東地区に渡ることが困難であったことから、東地区に渡れる状態となった際に再度東地区の調査が必要としてきた。

今回、山頂部の採石が東地区から実施されるに伴い、山頂に登頂できる状態となったことから調査を再開した。調査区は西地区に比べほとんど巨石が露出する急斜面部が僅かに残る状態で、発掘できる範囲も限られたものであった。調査は6ヶ所にトレンチを設定して遺構、遺物の確認をおこなった。

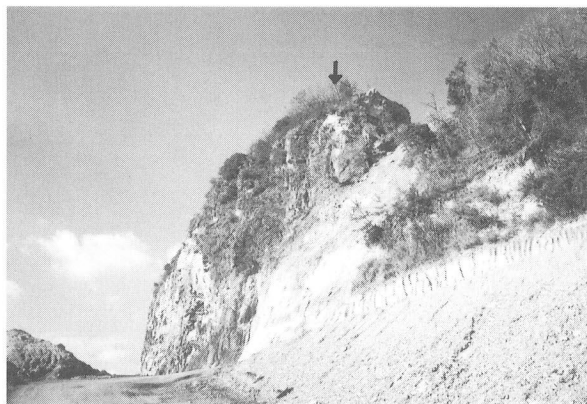
8. まとめ

調査により、各トレンチから遺物が出土したが、多くが小片であった。土器片は弥生中期末頃のもので、ほかにサヌカイト製石包丁1点と石鎌6点が検出された。また分銅型土製品の一部も出土している。遺物量は西地区に比べ少量であり、遺構も西地区同様確認されなかった。遺構については、本来の山頂平坦部が既に消滅していることから、遺構も消滅したものと考えられ、南の急斜面部に遺物包含層のみが僅かに残されているものと思われる。調査区が巨岩の露出や崖面の多さから限られており、今回の調査をもって烏帽子山遺跡の調査を終了した。

(今井)



第1図 遺跡の位置（「白峰山」）



第2図 烏帽子山近景



第3図 土器片出土状況

ひがし 原 遺 跡 東 原 遺 跡

1. 所在地 綾歌郡飯山町上法軍寺字東原
2. 調査主体 飯山町教育委員会
3. 調査期間 平成10年6月8日
4. 調査面積 約80㎡
5. 調査担当者 生涯学習課 佐岡人志
6. 調査指導 文化行政課 塩崎誠司
7. 調査の原因 団体営ほ場整備事業
(大窪谷地区)
8. 調査結果の概要

調査地は大窪池の所在する谷の西側尾根斜面部に位置する。昨年度、標記事業実施に伴い実施した試掘調査の結果、古代～中世に至る大規模な集落跡が確認され、大部分が地権者等の了解のもと盛土により現状保存されている。

今回の調査は、標記事業に伴い工法上やむを得ず切り土となる個所が生じたため、実施したもので、谷部に向かって傾斜する比較的急な斜面地であったことから、近年の地形改変により大きな削平を被っていることが予想された。調査の結果、一部では当初の想定どおり、耕作土直下で地山層（黄褐色シルト層）が検出される範囲があるものの、その他大部分で平安時代～中世に至る遺構・遺物を検出した。検出した遺構は、溝、柱穴跡、土坑等で、昨年度検出されたような大型の堀方をもつ柱穴跡群は検出されなかったが、今回の調査地を含めた尾根全体が集落域として当該期に土地利用されたことが判明した。

9. まとめ

調査対象地の北には、古代寺院として著名な「法勲寺跡」が所在し、昨年度からの調査成果から、当遺跡の古代の集落については、地理的關係からこの寺院を建立した勢力と何らかの有機的な関係があったことが想定されている。今回の調査を含めて、これまで実際に調査を実施した範囲は僅かであることから、今後、近辺での開発等がある場合は、十分に注意を払い、遺跡の性格を明らかにする必要がある。（塩崎）



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）



第2図 遺構検出状況



第3図 遺構完掘状況

にしながおじょうせき 西長尾城跡

1. 所在地 綾歌町岡田上2312—10、
2312—13
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成10年9月1日
～平成11年3月11日
4. 調査面積 4,000㎡
5. 調査担当者 近藤武司
6. 調査の原因 分布確認調査
(国庫補助事業)
7. 調査結果の概要

綾歌町の計画する綾歌町森林公園整備計画に伴い、町教育委員会では、その範囲内に所在する中世期に長尾大隅守元高が居城していた西長尾城跡の整備について計画を進めている。

西長尾城跡については、資料が乏しく詳細について不明な点が大部分を占めていることから

町教育委員会では、平成6年度から西長尾城保存会を発足させ各史料の収集及び整理作業を進めている。この予備調査と併せて、町教育委員会が主体となり、平成8年度から国庫補助事業を利用し、遺構分布確認調査を実施し、現地における基礎資料の作成を進めている。

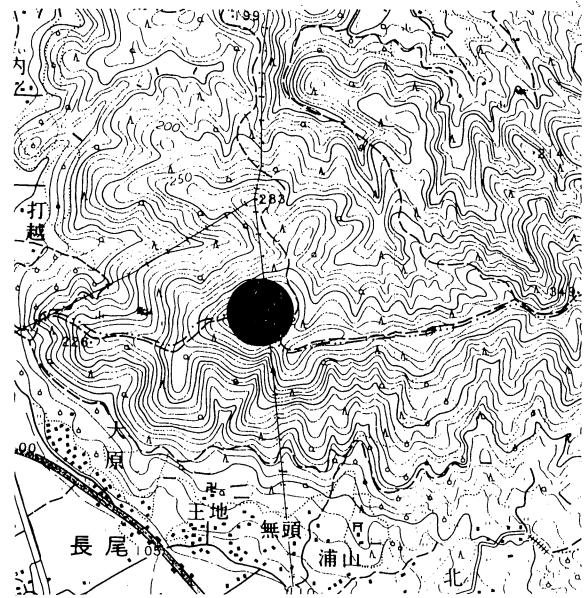
今年度についても同事業を継続して実施することとなり、昨年度に引き続き平板による測量調査を実施した。

今回測量調査を実施した範囲は、本丸から北東に延びる2筋の尾根のうち北側の尾根上に分布する連郭式郭列と、その南側に所在しているもう一つの連郭式郭列との間にはさまれた井戸跡の所在する谷部分である。調査方法は昨年度までの調査と同様で、測量の妨げになる部分についての伐採の実施、平板測量については縮尺1:100、コンターラインは25cm間隔とした。

今回の調査成果から判明した点について述べると、一点目として第15郭から第19郭にかけて展開する連郭式郭列のうち、第15郭を除く4郭において下段に面する切り岸部分が直線的に成形されていることが挙げられる。そして、この直線部分が、ほぼ平行に配されることから考察すると、極めて高い築城技術が導入されていることが伺える。また、この連郭式郭列の外側には、一直線に土塁が巡らされており、外部から遮断されていることと、内側には各郭間の連絡の役目を果たす通路状の平坦部が設けられていることも判った。

もう一点注目すべき点は、二つの連郭式郭列に挟まれる谷筋の付け根から井戸郭の所在する削平部分までに至る斜面一面に、畝状に連続する堅堀が配置されていることである。この連続堅堀の用途については今後の検討課題となるが、重要な役割を果たしていた部分であることには相違ないであろう。

最後に、井戸郭には、後世のものであるのかの判定こそできていないが、少なくとも大小6基の井戸跡が所在していることが判明した。これらは、全て崩壊防止のための石組みを施されているものの地表に面する部分のみであり、それほど深さも有さないことから考えると、井戸というよりは水溜まりの要素が非常に強いものである。



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）

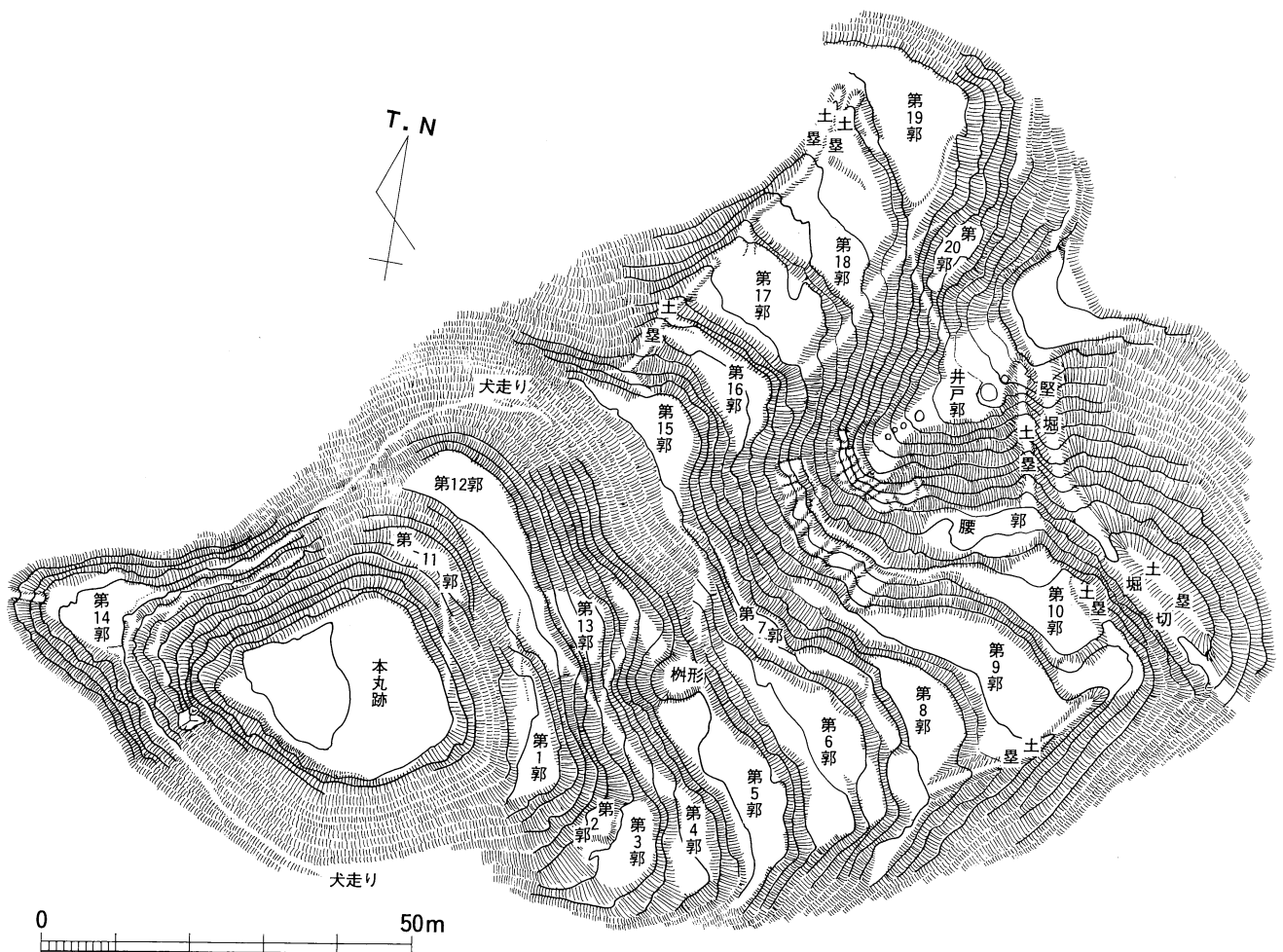
8. まとめ

今回は、本丸から北東に延びる2筋の尾根の内未調査であった北側の尾根に配置される連郭式郭列及び井戸郭のある谷筋を中心に調査を実施した。この調査によって新しく発見された部分はいくつかあるが、それと併せて課題点も浮き上がってきた。今後の調査を進めていく上でこれらの事項についての検証をしていくのと併せてこれまでの調査成果についても見直していく必要があると思われる。

しかしながら、今回の調査によって新旧西長尾城の変遷に至る構造の変化点を一部ではあるが確認することができたことは、西長尾城の構造を確認する上で十分な成果を得たものとして評価できるところである。

次年度以降についても継続してこの事業を実施し、遺構の分布状況、城内におけるルート及び各施設の正確な役割等について早期に解明できるようにしたいと考える。(近藤)

(測量成果は、『綾歌町内遺跡発掘調査報告書 第3集』綾歌町教育委員会1999. 3にて報告)



第2図 西長尾城跡測量図 (S = 1 : 1,000)

くま くら いけ ひがし こ ふん
熊 倉 池 東 古 墳

1. 所在地 綾歌町栗熊東221
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成10年12月26日
～平成10年12月27日
4. 調査面積 400㎡
5. 調査担当者 近藤武司
6. 調査の原因 土砂採取工事
(国庫補助事業)
7. 調査結果の概要

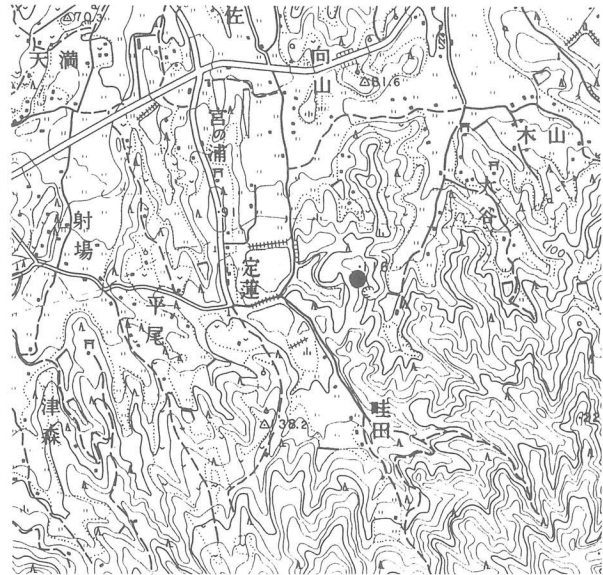
綾歌町の南部に位置する栗熊東熊倉地区において民間事業者による土砂採取工事が計画された。町教委では、一昨年度踏査によって計画範囲内の埋蔵文化財の分布状況を調査し、開発区域東部の南北に走る尾根から西に僅かに下った位置で積石の所在と併せてマウンド状の高まりを確認している。

周囲には、平尾墳墓群や定連池東丘古墳群、畦田古墳群、定連遺跡等が点在することから、当地についても横穴式石室を持つ古墳であると考えられた結果、今回の調査に至った。

調査の結果、まず、石列に沿って設定した1トレンチでは、石材が地山まで到達していること及び底石がほぼ直線上に配列されていることが確認された。このことから古墳構築時の石積みであり、その形態から横穴式石室に付帯する羨道部の壁石であると考えられた。この石列は先端部から約2m奥まった位置で途切れていた。1トレンチに直交する2トレンチでは、羨道部から約40cmずれた位置から羨道部に平行する石列を検出した。この石列は、裏込め土も残存しており、玄室の側壁であると推察された。また、3トレンチでは、地山を掘り込んだ溝であることの確認と、ごく微量ではあるが土師器片を採取することができた。

8. まとめ

今回の調査によって確認された熊倉池東古墳について、町教委では重要な古墳であるという認識から、現状保存が望ましいとして開発業者に対して計画変更を要望した。(近藤)
(調査結果は、『綾歌町内遺跡発掘調査報告書 第3集』綾歌町教育委員会1999. 3にて報告)



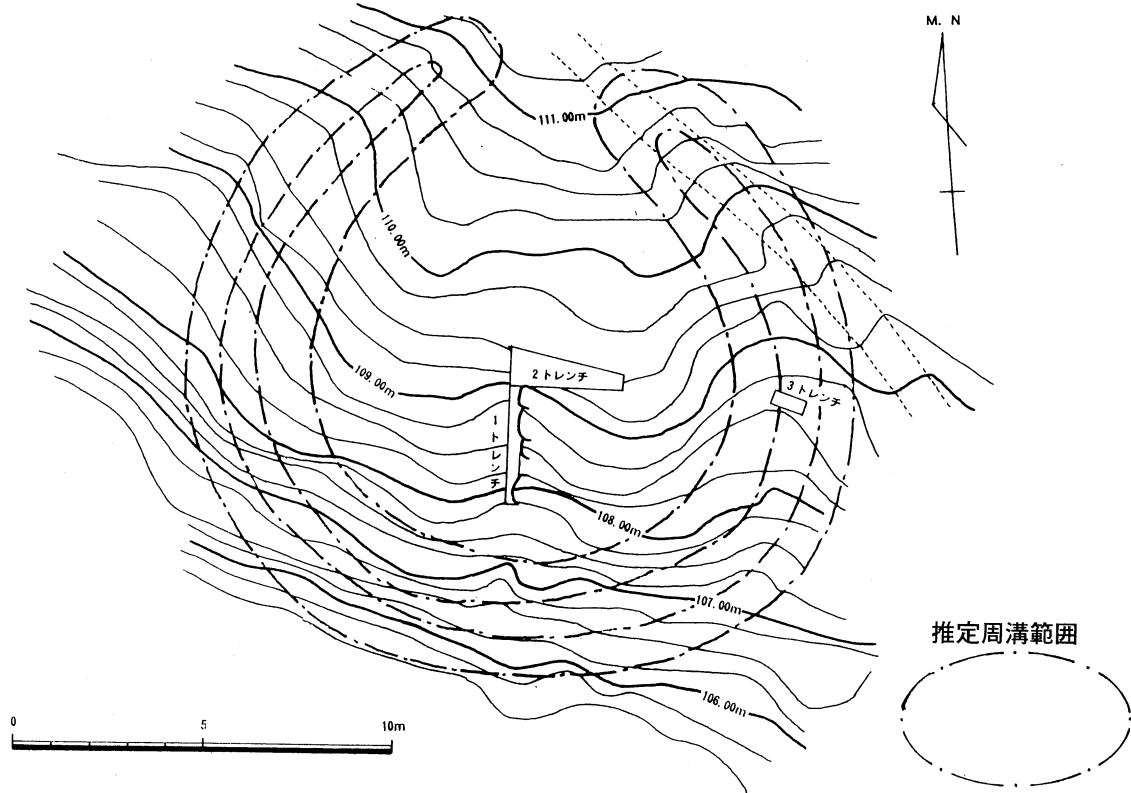
第1図 遺跡の位置(「滝宮」)



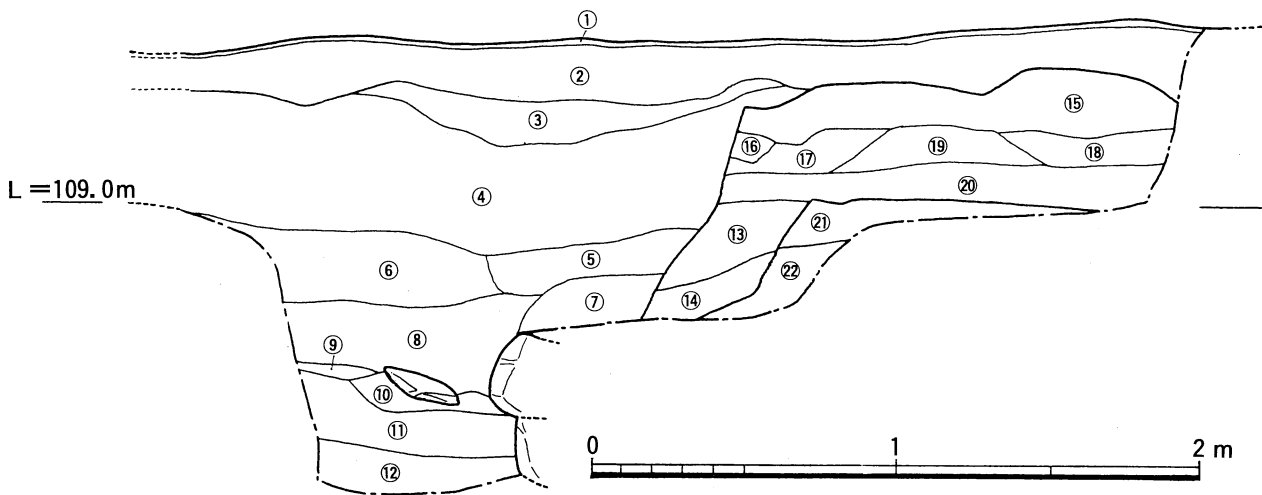
第2図 石列露出状況



第3図 墳丘全景



第4図 墳丘測量図及びトレンチ配置図



- | | | |
|------------------------|----------------------|--------|
| ① 腐食土 | ⑬ 暗黄褐色バイラン土 (やや締まる) |) 裏込 |
| ② 暗黄色バイラン土 | ⑭ 暗茶褐色バイラン土 (緩い) | |
| ③ 暗黄白色バイラン土 (さらさら) | ⑮ 暗黄褐色バイラン土 (やや締まる) |) 墳丘盛土 |
| ④ 暗黄色バイラン土 | ⑯ 黄褐色土バイラン土 (ややさらさら) | |
| ⑤ 暗黄色バイラン土 (さらさら・やや粗い) | ⑰ 暗灰黄褐色バイラン土 (やや締まる) | |
| ⑥ 黄褐色バイラン土 (やや粘性) | ⑱ 暗黄色バイラン土 (やや締まる) | |
| ⑦ 暗褐色バイラン土 (やや粘性) | ⑲ 暗灰黄褐色バイラン土 (やや締まる) |) 地山 |
| ⑧ 暗黄褐色土バイラン土 (やや粘性) | ⑳ 暗黄褐色土 (やや締まる) | |
| ⑨ 暗黄褐色土バイラン土 (やや粗粘性) | ㉑ 暗黄灰褐色バイラン土 (締まり強い) | |
| ⑩ 暗黄白色バイラン土 (やや粘性) | ㉒ 黄褐色バイラン土 | |
| ⑪ 暗黄褐色バイラン土 (やや粗い) | | |
| ⑫ 暗茶褐色バイラン土 (やや粗い) | | |

第5図 1トレンチ土層図

しい お ひがし い せき 椎 尾 東 遺 跡

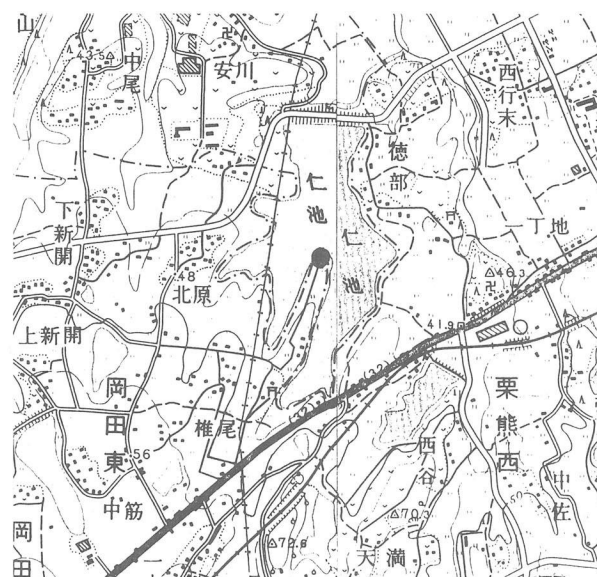
1. 所在地 綾歌町岡田東1247-3
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成10年11月9日
～平成10年11月11日
4. 調査面積 42.8㎡
5. 調査担当者 近藤武司
6. 調査の原因 県営農道附帯浚渫工事
7. 調査結果の概要

綾歌町岡田東北原及び椎尾地区において、平成6年より香川県の実施する緊急農道整備事業の路線計画がなされたことによる事前調査の結果、一昨年度までに北原遺跡及び椎尾遺跡の所在が確認されている。

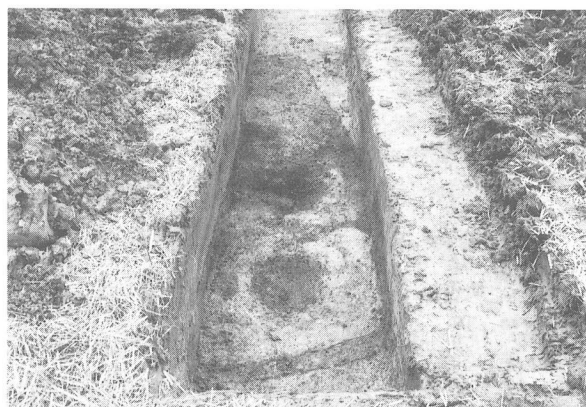
また、上記事業に附帯する仁池の浚渫工事が計画されたことに伴い、昨年度実施された試掘調査によって当地において竪穴住居跡を包蔵する椎尾東遺跡の所在を確認することができた。この発見によって町教委では、開発サイトに対して浚渫工事区域西南端に位置する椎尾東遺跡包蔵範囲について事業計画の変更を働きかけた。しかし、協議の結果、計画変更ができないということから今回の事前調査に至った。

調査については、まず昨年度の試掘トレンチを再検出し、改めて断面等の観察を入念にした後、重機により遺構面検出を行った。その結果、東西2.98m、南北3.69mの方形の竪穴住居が確認された。遺構上層部については、中世以降の水田整備等によって削平及び盛土を受けているようであり、ほぼ水平にカットされているが中層部以下については比較的良好に残存していることも確認できた。

遺構の構造としては、全周に幅約20cmの壁溝を有し、その西半部では形状こそ不明瞭であるが、ベッド状の高まりも確認した。また、住居内中央部の南北軸に合わせて1.5m間隔で2つの柱穴痕を検出した。丹念に精査したが、他に柱穴は確認できなかったことから、この竪穴住居は2本柱で屋根を支えていたと考えることが適当であろう。また、住居内のさらにその東側



第1図 遺跡の位置（「善通寺・滝宮」）



第2図 竪穴住居検出状況



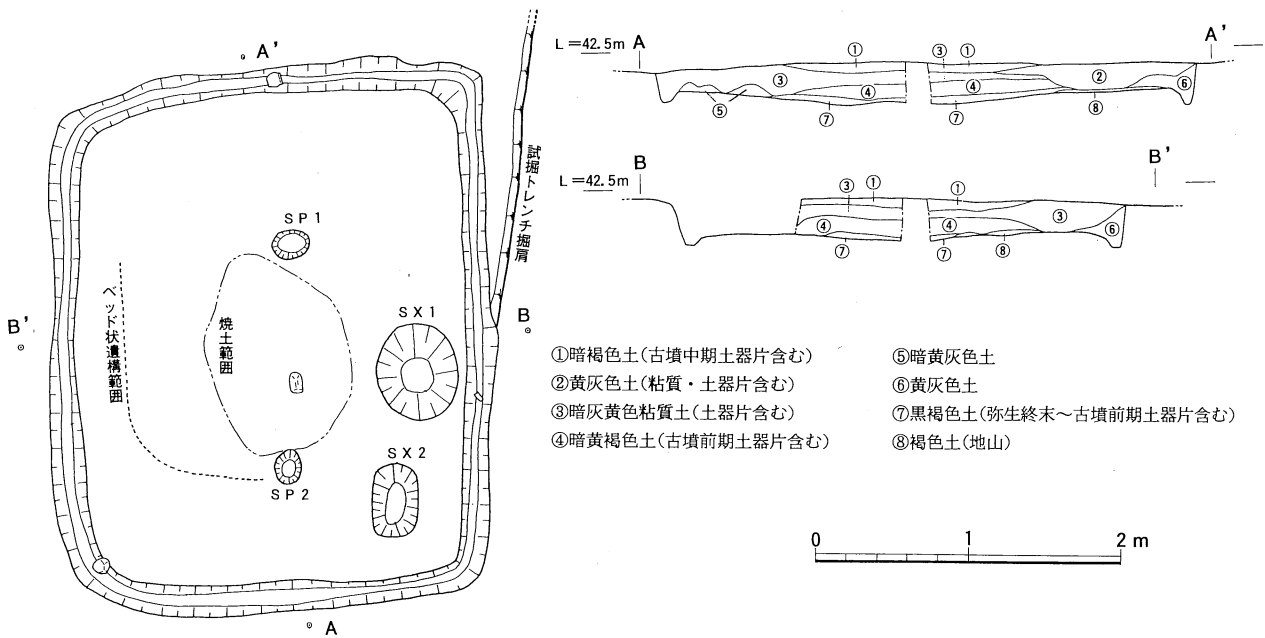
第3図 竪穴住居完掘状況

では、焼成土が幾重にも堆積していることから炉跡であることが推察できる。

出土遺物としては、壁溝内の堆積土から弥生時代終末期に利用されていたと考えられる甕が出土した。さらに打製の石鏃及び同じく打製の槍先形石器と考えられる石器も出土した。

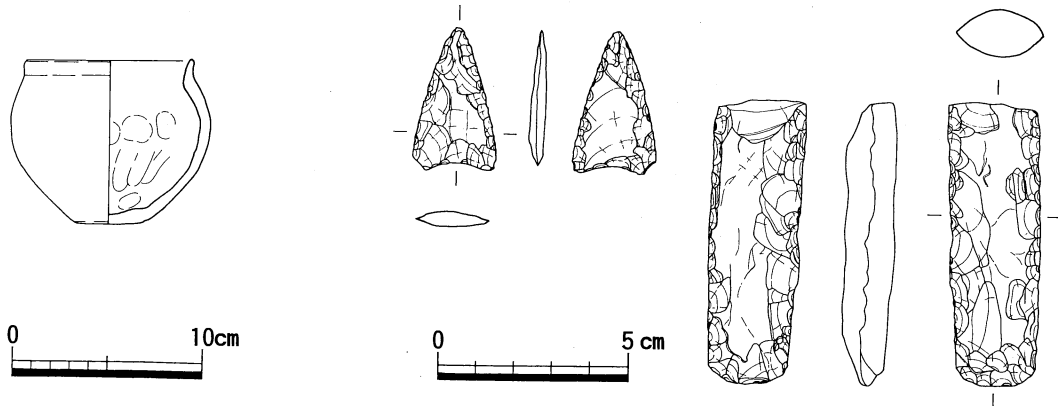
8. まとめ

今回の調査によって確認されたのは竪穴住居1棟のみであったが、所在地が緩やかな丘陵先端部であることや付近にも集落遺跡が所在していることから考えると当地から南部にかけて集落遺跡が広がっていると考えられる。また、埋土内の包含遺物状況から考えると古墳中期頃までは生活が営まれていたようである。
(近藤)



- ① 暗褐色土(古墳中期土器片含む)
- ② 黄灰色土(粘質・土器片含む)
- ③ 暗灰黄色粘質土(土器片含む)
- ④ 暗黄褐色土(古墳前期土器片含む)
- ⑤ 暗黄灰色土
- ⑥ 黄灰色土
- ⑦ 黒褐色土(弥生終末～古墳前期土器片含む)
- ⑧ 褐色土(地山)

第4図 竪穴住居平面・土層実測図



第5図 出土遺物実測図

井 手 上 遺 跡

1. 所在地 綾歌郡綾南町羽床下字川端
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年6月12日、18日
4. 調査面積 約200㎡
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 県道綾歌綾上綾南線改良工事
7. 調査結果の概要

調査地は、羽床盆地南西部の緩斜面地に位置し、西には独立丘陵である堤山が、南東の尾根には古墳時代後期の城下古墳群のほか、中世城館跡として著名な羽床城跡が所在し、近隣の尾根部には遺跡が密集するもののその生活・生産基盤として考慮されるべき集落跡はこれまで確認されていない。

今回の調査の結果、調査地西側の現地表下約50cmで溝2条を検出している。うち1条は幅20cm、深さ10cm程度で遺物はほとんど出土しないが、僅かに出土した土器細片から中世頃の所産と考えられる。残る1条は幅約40cm、深さ約17cmで比較的多量の弥生土器片が出土している。出土した遺物は第3図のとおりで、概ね弥生時代後期前半段階の所産である。

一方、調査地東側では、現地表下約60cm程度で柱穴跡、流路等の遺構を検出している。柱穴跡は径30cm程度のものと、径17cm程度のものの2種類検出されており、出土した須恵器片から7世紀前半代のものと想定される。流路は幅1.3m、深さ70cm程度で埋土上層には、多量の流木片が含まれているが、下層で柱穴跡と同時期の須恵器片が少量しており、ほぼ同時期に機能・埋没したことが知られる。

以上の結果から、当調査地では、同一遺構面から、弥生時代、7世紀前半、中世の複数時期にわたる遺構が検出されており、主要河川である綾川から一段あがった当地域が比較的安定した土地として複数時期にわたって土地利用がなされたことが判明している。今後、当遺跡が、前述したような調査地背後の尾根上に密集する古墳・城館等とどう関連するのかについて注目される。

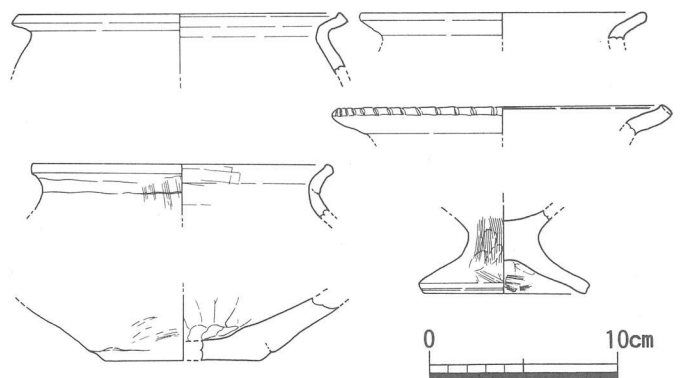
(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「滝宮」）



第2図 遺構検出状況（調査地西部）



第3図 出土遺物実測図（弥生）

ひらまつ いけ かま あと 平 松 池 窯 跡

1. 所在地 綾歌郡綾南町大字陶字森末
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年11月7日
4. 調査面積 約50㎡
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 県営ほ場整備事業
(綾南南部地区)
7. 調査結果の概要

調査地は、平成9年度に試掘調査を実施した平松池内に位置する。西岸の中ほどに所在する1号窯跡については、事業者との協議の結果、現状保存することで合意に達していたが、池奥での試掘調査で池内堆積物から少量の須恵器片が出土した第4図の範囲については、新たな窯跡が所在する可能性があったことから立会調査を実施したものである。調査地は、試掘調査時には、現地表下約2mから須恵器片が少量出土したのみで、さらに池奥の谷上流部に窯跡が所在する可能性が考えられ、当該地付近は、遺物の堆積状況及び埋没深度から考えて上流からの流れ込みによる堆積の可能性が高いと判断された箇所でもある。

今回の調査の結果、池内浚渫工事の断面で幅約12m、深さ約90cmの灰原層が検出された。埋土は黒褐色シルト層を基調とし、多量の須恵器片、木炭片を含む。断面に露出した須恵器片はコンテナ約2箱分で、その一部を第5図のとおり示している。自然絨により癒着していたり、器形が変形していたりする失敗作が中心であるが、大半が大甕の破片で占められる。ただ、僅かではあるが、壺、鉢等の破片もみられることから、小型製品も少量ながら焼成していた可能性が高い。

8. まとめ

今回の調査の結果から、試掘調査の時点で確認していた池西岸に所在する1基の窯跡のほか池奥でも新たに灰原層が検出され、さらに1基窯跡が所在する可能性が高いことが判明した。出土遺物は、ほぼ10世紀後半段階のものに限定されることから操業時期については、1号窯跡とほぼ同時期であることが想定される。
(塩崎)



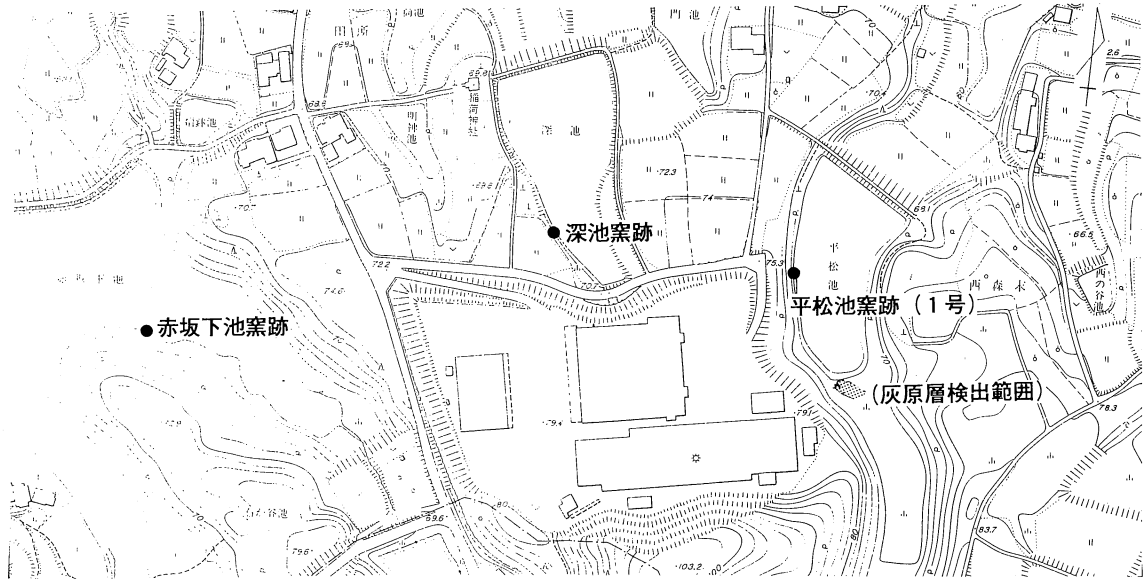
第1図 遺跡の位置（「滝宮」）



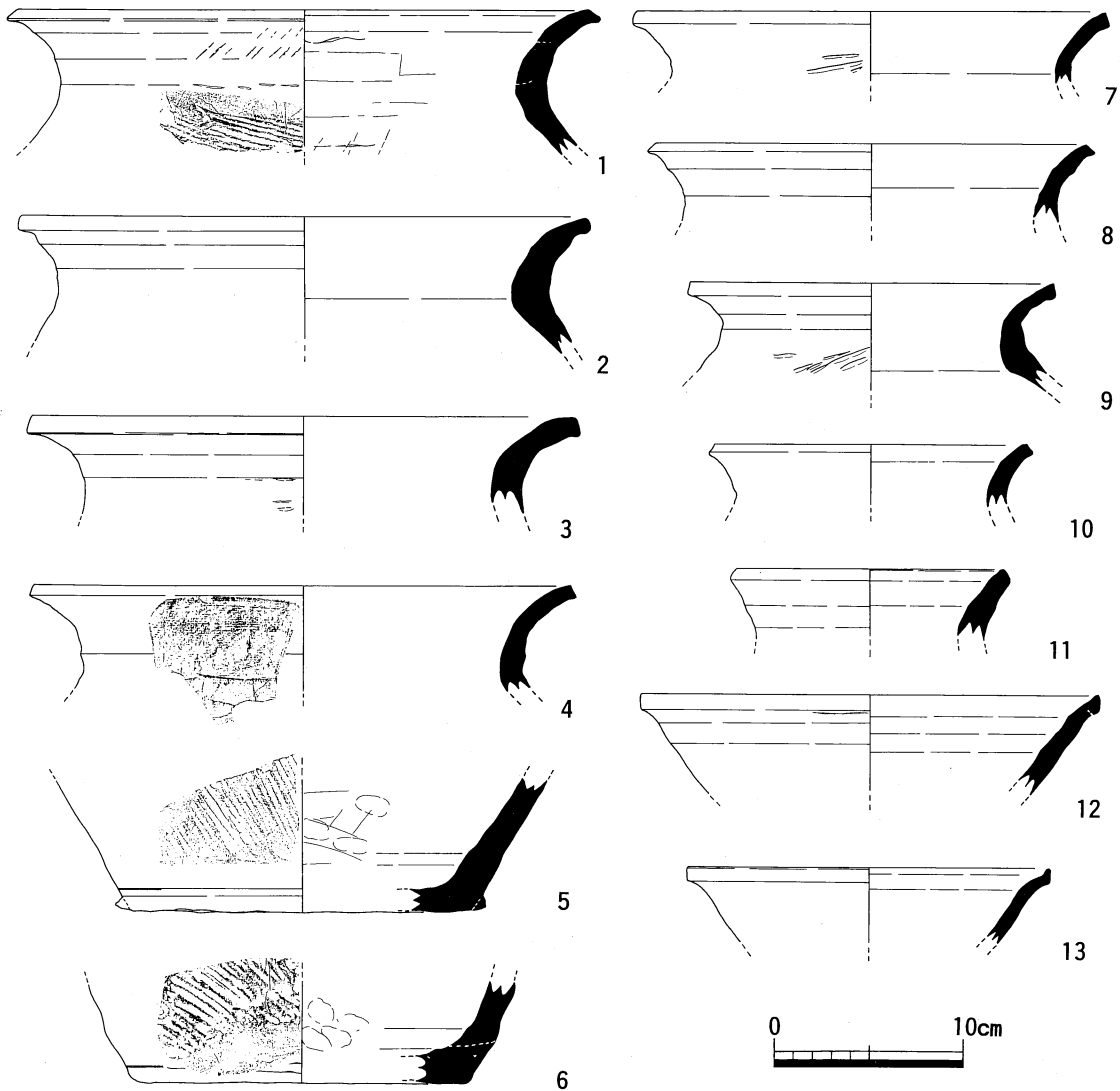
第2図 平松池全景



第3図 灰原層検出範囲近景



第4図 灰原層検出範囲位置図 (S = 1 / 5,000)



第5図 灰原層出土遺物実測図

によいりんじかまあと 如意輪寺窯跡

1. 所在地 綾歌郡国分寺町国分字中西
2. 調査主体 国分寺町教育委員会
3. 調査期間 平成11年3月1日～4月30日
4. 調査面積 約80㎡
5. 調査担当者 松本忠幸
6. 調査原因 如意輪寺公園整備事業
7. 調査結果の概要

当該遺跡は、国分寺の南東1km、山越池北岸に位置する。標記事業実施前に発見されたため、急遽発掘調査を実施した。検出した窯跡は2基とも半地下式有牀平窯である。

1号窯跡（東側） 窯体全長は3.2mで、残存部は焚き口、燃烧室、焼成室。焚き口の最下層は、厚さ10cmの炭を多く含む黒褐色粘質土で埋まっていた。最大幅1.8mで燃烧室に向

かって内傾しており、形状は舟底形を呈する。焚き口付近は窯床面を粘土で塗り付けるように補修していた。焼成室は幅1.2m、長さ1.8m残存する。窯床は燃烧室からほぼ垂直に立上り、焼成室では徐々に勾配が緩やかになる。牀は2条であり、各々の幅は20cmで燃烧室側が狭く、奥壁側がやや広くなる。牀は燃烧室側で約70cmの高さを計るが、中央部では約30cmとなる。両側壁には縁が設けられていたはずであるが、確認できなかった。また、前庭・灰原の位置にあたる場所に試掘トレンチを設定したが、遺構・遺物は見られなかった。

窯体は花崗岩風化土に構築されており、特に牀部は出土瓦と同様に青灰色を呈し、焼成は非常に堅緻である。また、側壁と地山の間約10cmの幅で全体に焼土が確認できた。

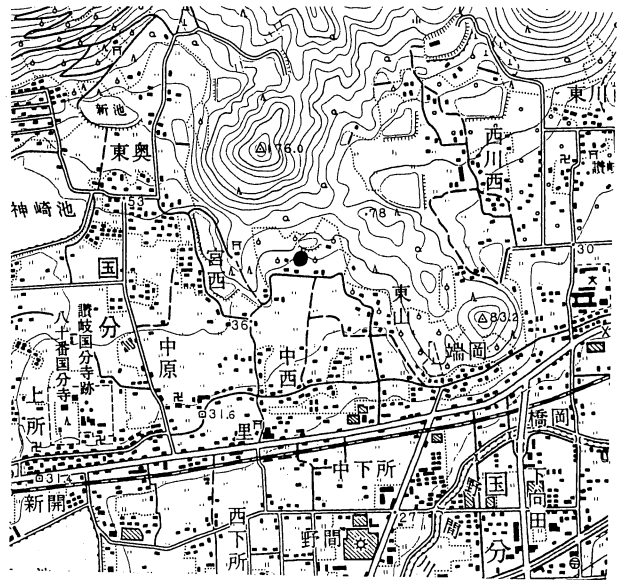
2号窯跡（西側） 窯体全長は3.9mで、残存部は焚き口、燃烧室、焼成室及び燃烧室と焼成室の境に天井部の一部。焚き口の最下層は、1号窯と同様厚さ10cmの炭を多く含む黒褐色粘質土で埋まっていた。最大幅1.6mで燃烧室に向かって内傾しており、形状は舟底形を呈する。焼成室は幅1.2m、長さ2.2m残存する。窯床は燃烧室からほぼ垂直に立上り、焼成室では徐々に勾配が緩やかになる。牀は2条であり、各々の幅は20cmで燃烧室側が狭く、奥壁側がやや広くなる。牀は燃烧室側で約65cmの高さを計るが、中央部では約30cmとなる。2号窯でも両側壁には縁が設けられていたはずであるが、確認できなかった。また、前庭・灰原の位置にあたる場所に試掘トレンチを設定したが、遺構・遺物は見られなかった。

窯体は1号窯同様に粘土を使って構築したのか、特に牀部は焼成が非常に堅緻である。

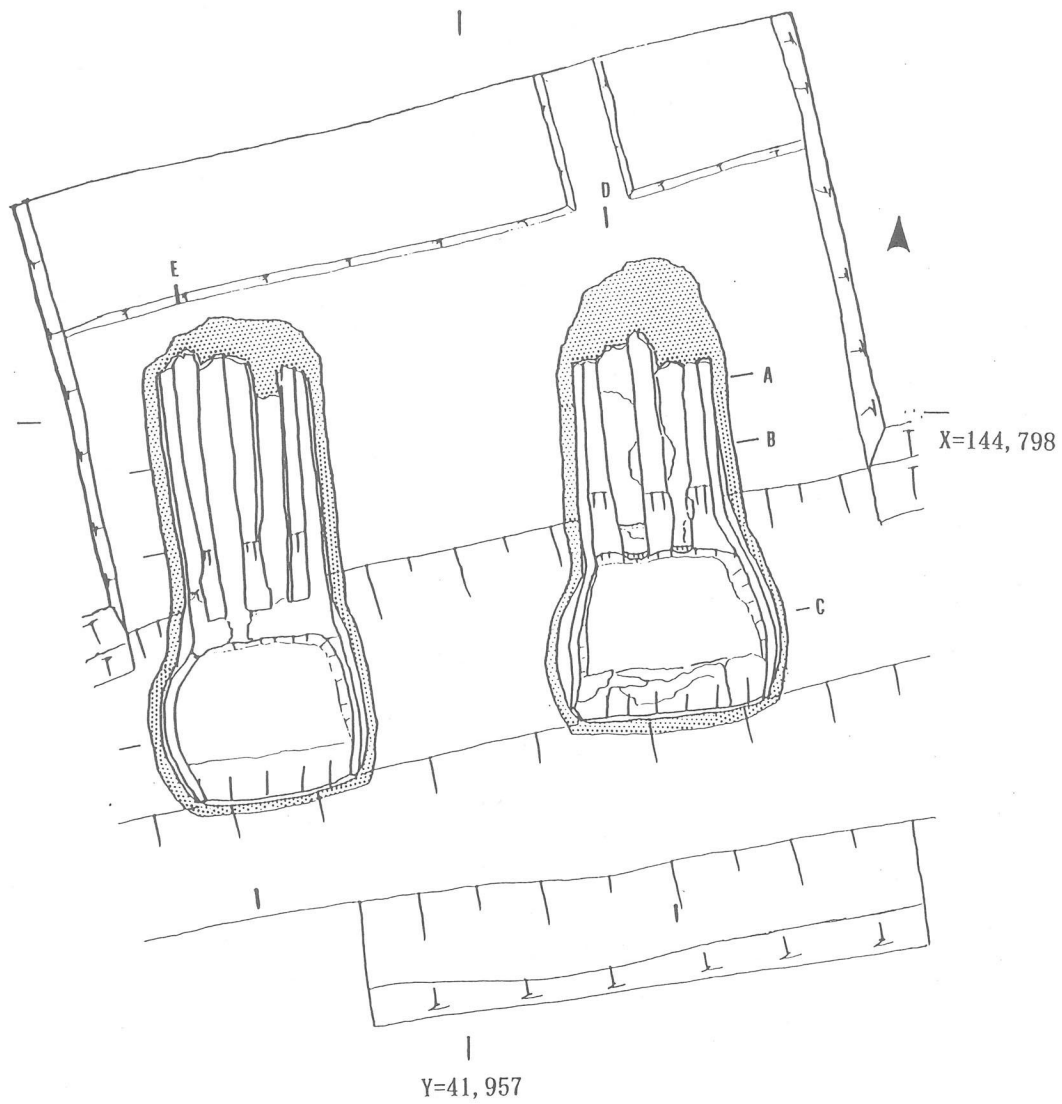
8. まとめ

今回の調査により、発見された2基の瓦窯は出土した平瓦、土器、及び付近から採取された軒瓦から、同時構築であり12世紀前半から12世紀後半にかけて操業されたことが判明した。焼成室は途中で削平を受けているが、上方で焼土が残っており、同時代の瓦窯や地形から見て全長は4.2m前後になると思われる。付近に別の瓦窯も見られないことから、如意輪寺建立に際し、設置された寺専用の瓦窯であったと推定される。

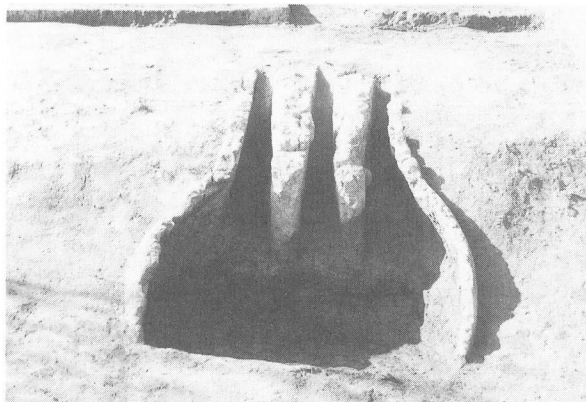
(松本)



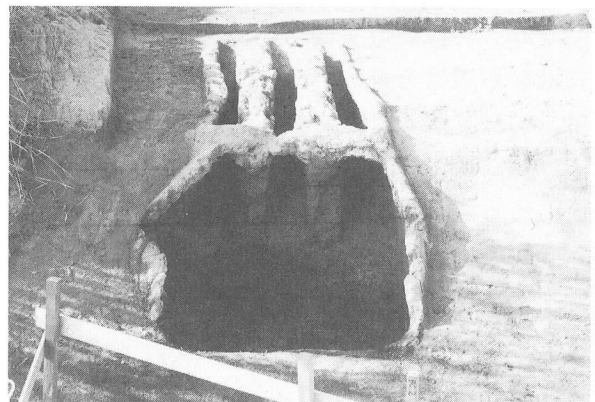
第1図 遺跡の位置（「白峰山」）



第2図 遺構配置図 (2/125)



第3図 1号窯 (南から)



第4図 2号窯 (南から)

1. 所在地 高松市勅使町西小山
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成10年12月25日～12月28日
4. 調査面積 約100㎡
5. 調査担当者 文化行政課 塩崎誠司
6. 調査の原因 給水塔撤去工事
7. 調査結果の概要

亀塚は、浄願寺山南西部から南に派生する低丘陵上に位置する前方後円墳で、積石塚が集中する北の石清尾山古墳群と比べ、盛土であること及び独立して所在すること等、従来からその特異性が指摘されていた古墳である。ただ、同古墳については、従前に簡易な調査所見が得られているものの、標記施設の設置工事に伴い従来の地形は大きく失われてしまっている。今回、標記事業実施に伴い、墳丘の範囲及び残存状況を把握する必要性が生じたため、測量調査及び最低限のトレンチを設定し調査を実施している。

測量の結果は第3図のとおりで、調査前に残存している可能性が考えられた前方部については、3トレンチ（第5図）の結果から、標記施設設置時に完全に削平されていることが判明した。一方、3トレンチ以外の全てのトレンチでは古墳築造時の地表面と推定される土層の堆積を確認し、後円部に設定した1・2・4トレンチでは攪乱を免れて墳丘盛土（版築）層を確認した。

（第4・6図）特に4トレンチでは墳丘裾部と想定される位置で、原位置を保ち、基底石の可能性を持つ石材を検出している。（第6図）ただ、標記施設が設置されている後円部上はやはり大きな地形改変を受けており、本来の後円頂部平坦面及び墳丘の高さ等は不明である。なお、出土遺物については、4トレンチで攪乱層から土師器の可能性のある細片が少量出土したのみで時期の特定には至っていない。

9. まとめ

今回の調査で、後円部と推定されていた範囲に古墳が確実に所在することが判明したことは大きな成果であるが、従来、前方後円墳と言われていた同墳について、大きな地形改変のためその墳形を確定するだけの資料は得られなかった。ただ、1トレンチで確認した墳丘盛土層の堆積終了箇所及び4トレンチで検出した基底石の可能性をもつ石材をそれぞれ、後円部及びくびれ部の墳裾と最大限解釈し、さらに従前の調査所見も加見するならば、前方後円墳として第8図のとりの墳丘範囲が想定される。また、1・4トレンチで確認された版築の状況から同墳の築造時期については古墳時代前期～中期の中で想定されるが、出土遺物も皆無に近い現状では築造時期の特定は困難で、詳細は今後の埋葬主体部調査及び出土遺物の増加を待ちたい。なお、今回の調査にあたっては、高松工業高等専門学校、高松市教育委員会、徳島文理大学文化財学科の協力を得ている。（塩崎）

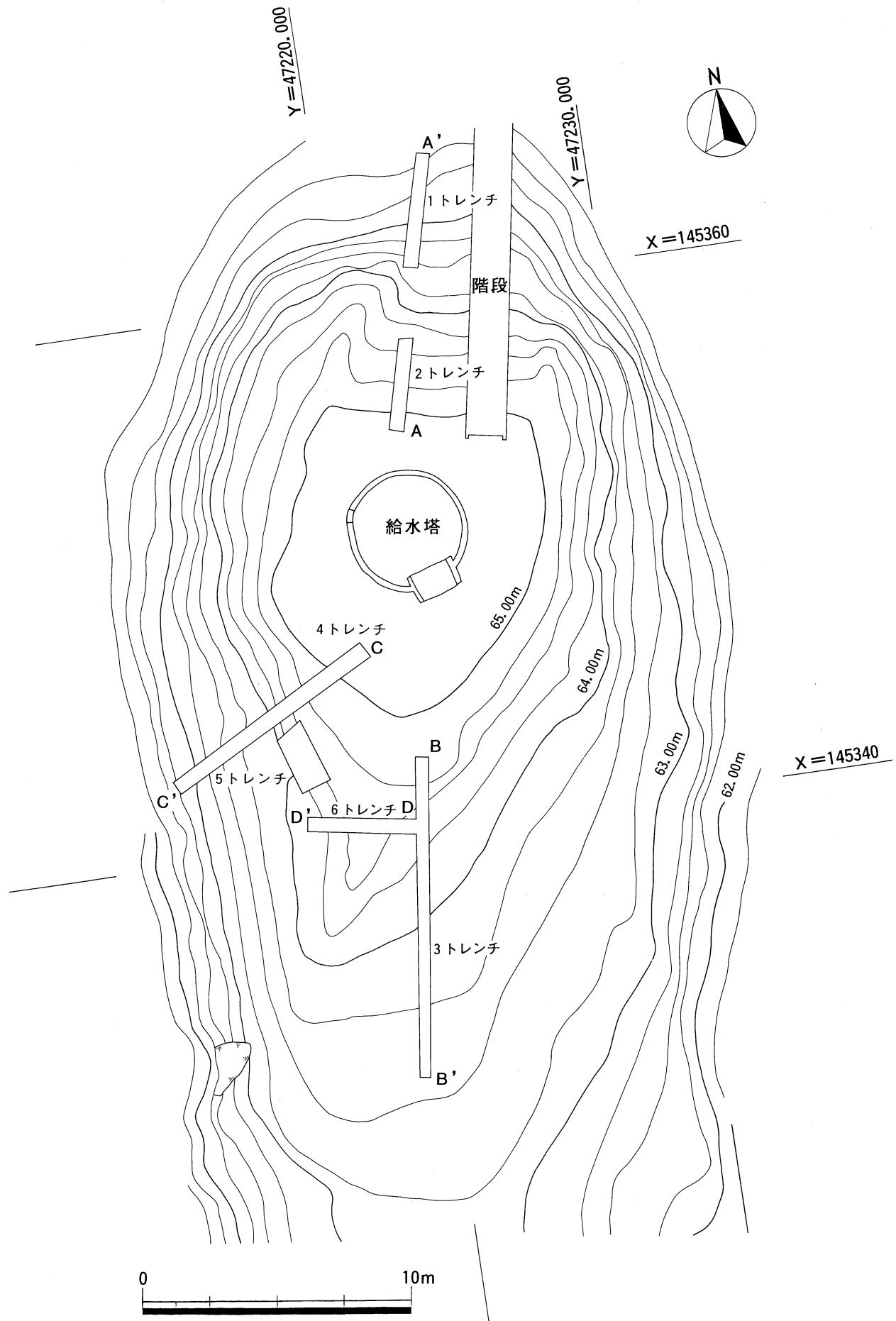
（参考文献）小竹一郎「がめ塚」高松市文化財（史跡）分布調査報告書（謄写版）



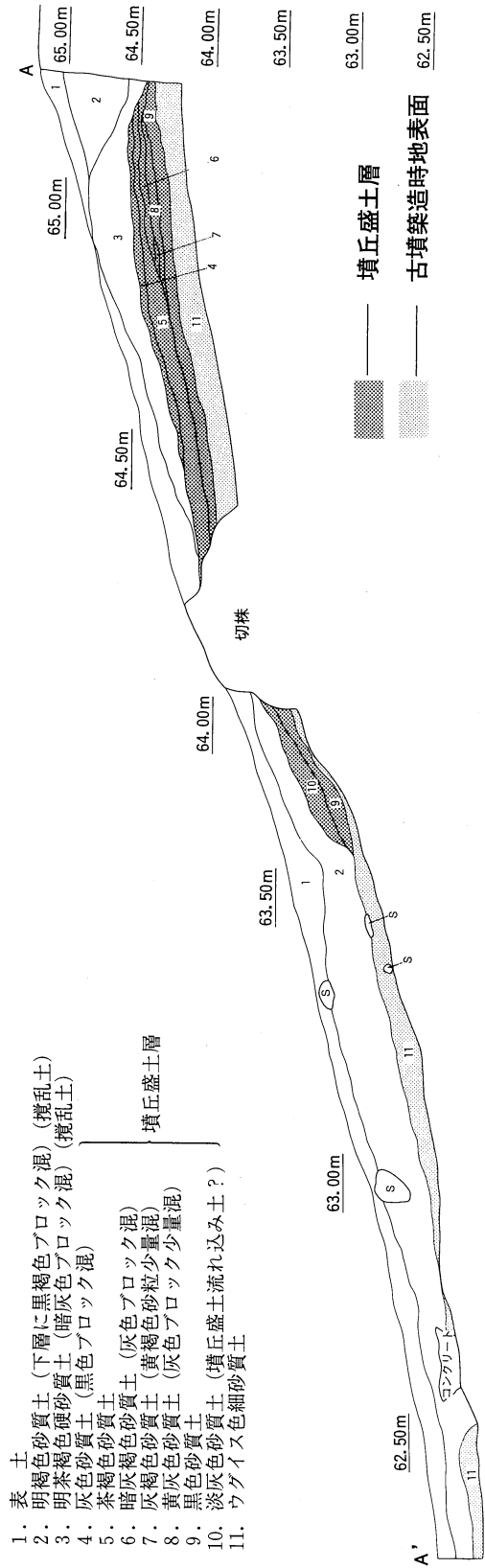
第1図 遺跡の位置（「高松南部」）



第2図 調査前の状況（前方部を望む）



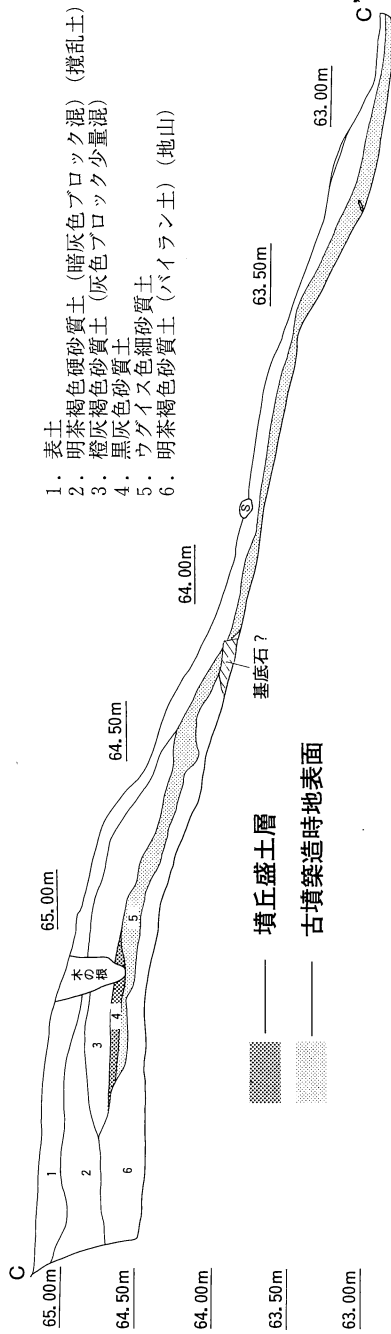
第3図 亀塚墳丘測量図



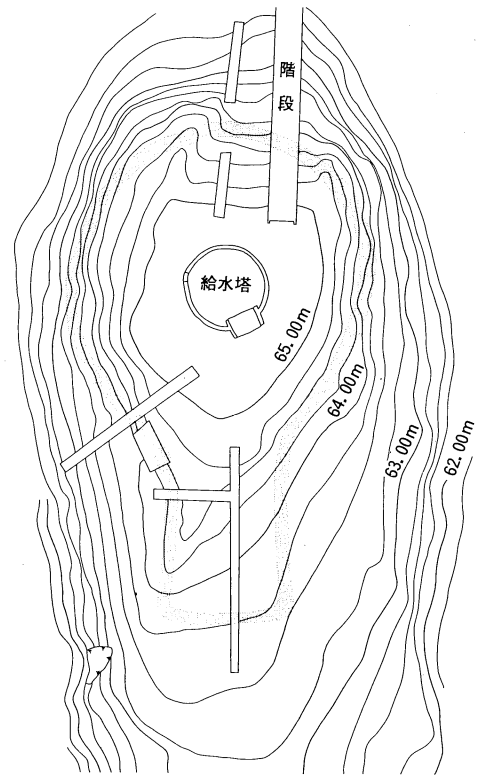
第4図 A-A' 土層断面図 (S=1/50)



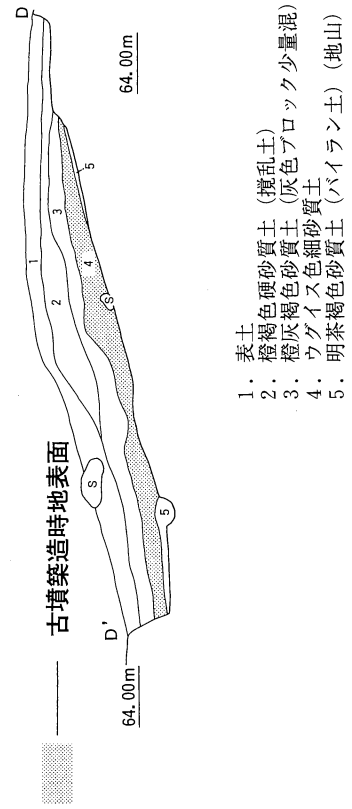
第5図 B-B' 土層断面図 (S=1/50)



第6図 C-C' 土層断面図 (S=1/50)



第8図 墳丘ライン想定図 (S=1/400)



第7図 D-D' 土層断面図 (S=1/50)

鬼無藤井遺跡

1. 所在地 高松市鬼無町藤井
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成10年5月25日～7月6日
4. 調査面積 約319㎡
5. 調査担当者 小川 賢
6. 調査の原因 市道鬼無町藤井12号線
道路改良工事
7. 調査結果の概要

本遺跡の調査地であるJR予讃本線沿いの市道（鬼無町藤井12号線、香西南町16号線）建設予定地の大半は平成9年度までに調査を終了しているが、2箇所が土地交渉等の理由により本年度に調査を行った。このうち北の調査区（約100㎡）の周囲は、前年度までの調査で古代～中世の条里方向に合う溝跡、掘立柱建物跡等を検出している。今回の調査でも、周囲からの遺構の続きと思われる南北方向の溝2条と東西方向の溝1条を検出している。南北方向の溝は、下層にあたる褐灰色シルト層で各々分岐して北に延びており、須恵器片、黒色土器椀、土師質甕等が出土している。東西方向の溝は、遺物はみられないが、南北方向の溝より切り合いで後出し、中～近世とみられる黄灰色シルト質極細砂が堆積する。

また南の調査区（約200㎡）は本遺跡の南端部に位置し、既に行った周囲の調査区では、弥生と中～近世の遺構、遺物を確認している。今回の調査では、ほぼ条里方向に合う掘立柱建物跡、溝跡、石組み暗渠、鋤跡等を確認した。出土遺物は、瓦、焙烙鍋、播鉢、染付碗など近世の遺物を中心に出土している。

8. まとめ

今回で本遺跡の調査は終了し、今後整理作業を行う予定。本遺跡では、北部で環濠をはじめ弥生前期の遺物を伴った遺構のほか、平安末期と室町時代のものとみられる掘立柱建物跡や溝跡等、条里方向の遺構を確認している。また近世以降では、掘立柱建物等の柱穴や井戸のほか鋤跡と石組み暗渠が調査地の多くで見られた。

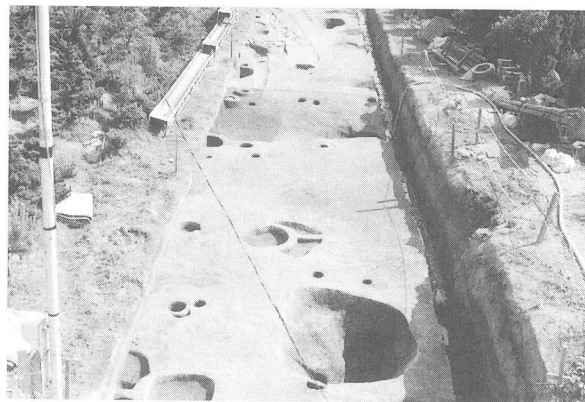
(小川)



第1図 遺跡の位置（「高松南部・白峰山」）



第2図 北調査区完掘状況



第3図 南調査区完掘状況

こうざいみなみにしうちいせき
香西南西打遺跡

1. 所在地 高松市香西南町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成10年7月13日
～平成11年3月5日
4. 調査面積 約3,650㎡
5. 調査担当者 小川 賢
6. 調査の原因 市道香西東臨港線
道路改良工事

7. 調査結果の概要

確認された主な遺構は、条里溝跡、不定形土坑、弥生時代の溝状遺構等である。条里溝跡は、坪界にあたる現道と平行するもので土師器坏、鍋、黒色土器碗等が出土している。不定形な土坑は、調査地のほぼ全域に見られ、地山である黄色粘土層を抉り取ったものと考えられる。この粘土採掘坑からは、ほぼ完形の土師質土鍋、土釜等の煮沸具が出土している。弥生時代の遺構としては、地形に沿った南西から北東方向の溝状の遺構をいくつか確認し、壺、甕、鉢等の後期に属する遺物が出土している。調査地の南部では、不定形土坑よりナイフ形石器、サヌカイト片がまとまって出土するため、南端の調査区ではグリッド調査を行った。石器が出土したのは黄色粘土層からで、火山灰分析において始良T_n火山灰が検出されている。

8. まとめ

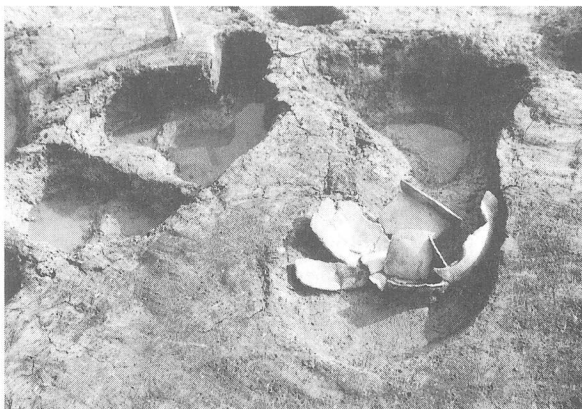
出土した石器は剥片が中心であるが、盤状剥片や翼状剥片、ナイフ形石器と瀬戸内技法を示すものが見られ、遺跡内で石器加工を行ったと考えられる。また旧石器は近年、中間西井坪遺跡をはじめ高松平野西部での出土例が多いが、標高4～5m程の本遺跡周辺においても、石器文化層が残存しているものと考えられる。

広範で集中した粘土採掘坑は、同様な堆積を呈し切り合いもあまり見られないことから、比較的短期間に粘土を採取したと思われる。また先行して行った試掘調査では、調査地の東で同型の土師質土鍋が大量に破棄されているのが確認され、調査地でも器形や調整の似た土鍋等が出土しており、周辺で土器生産を行っていた可能性も考えられる。坪界に相当する溝跡は堆積状況から採掘坑よりやや後出するものと思われるが、平安時代後半の遺物を中心に出土しており、この頃には条里地割りが存在したものと考えられる。

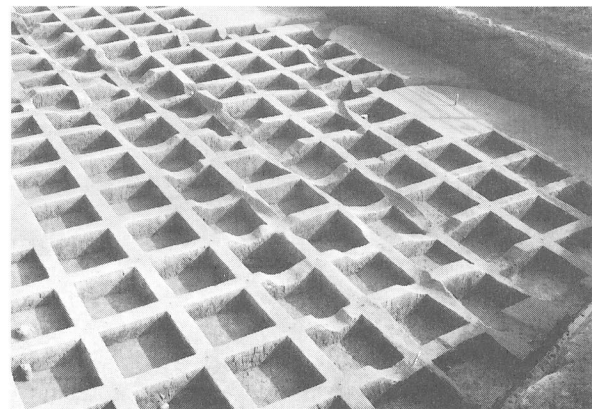
(小川)



第1図 遺跡の位置
（「高松北部・高松南部・五色台・白峰山」）



第2図 不定形土坑遺物出土状況



第3図 旧石器調査状況

にしどいせき 西ハゼ土居遺跡

1. 所在地 高松市西ハゼ町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成10年5月25日～7月31日
4. 調査面積 約2,000㎡
5. 調査担当者 高松市教育委員会
大嶋和則
6. 調査の原因 都市計画道路
木太鬼無線建設

7. 調査結果の概要

平成9年度に引き続き調査を行っており、平成10年度の調査地は遺跡の東半にあたる。平成9年度の調査地である遺跡の西半は弥生～中世にかけての遺構が主体を占めていたが、今年度の調査地では16世紀以降の遺構しか確認できなかった。

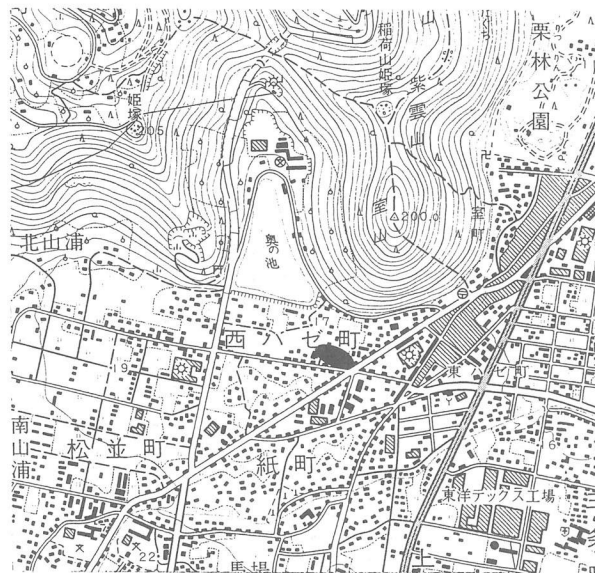
今回の調査では堀で囲まれた屋敷を3棟検出した。いずれの建物も堀の1辺しか完全に検出されておらず不明な点が多いが、最大のもので約44m四方の屋敷地と推定され、中規模のもので約33m四方、小規模のもので約22m四方と推定される。最大の屋敷地の堀から日用雑器に加え瓦や青磁が出土した。また、中規模の屋敷は堀が巡らされていたことが推測できるような柱穴列が認められた。

屋敷以外の遺構としては、屋敷間の幅約5mの空閑地があり、道路状遺構と考えられる。さらに、この道路の両脇に1基ずつ石組みの井戸を検出した。また、遺跡の東端では掘立柱建物を2棟検出した。

8. まとめ

調査で発見された屋敷は出土遺物から16世紀後半～17世紀初頭と考えられる。瓦や青磁が出土すること、堀や塀を巡らし防衛的機能を持つこと、「土居」の地名が残ることから武士の館であった可能性が高いと思われる。当時の坂田郷には坂田城が存在して、太田氏が城主であったという記録が残っており、関係が注目される。さらに調査地の北側の室山には太田氏の室山城の存在も知られており、山城と平時の館の関係も推察される。

(大嶋)



第1図 遺跡の位置（「高松南部」）



第2図 遺跡全景



第3図 屋敷跡

たかまつじょうあとさんの まるあときたがわいしがき
高松城跡三ノ丸跡北側石垣

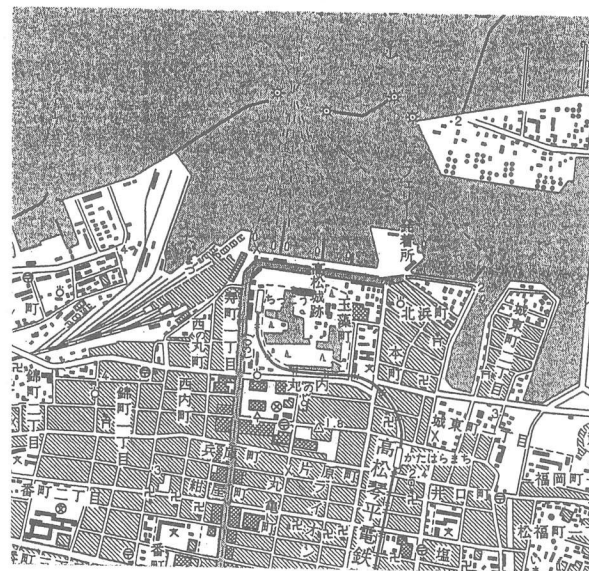
1. 所在地 高松市玉藻町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成10年7月8日～8月11日
4. 調査面積 14.25㎡
5. 調査担当者 山本英之
6. 調査の原因 石垣破損部分の修復に伴う確認調査
7. 調査結果の概要とまとめ

三ノ丸跡北側石垣の裾部に水門より東17m (A地点)、同70m (B地点)、渡櫓から西20m (C地点) の3箇所のトレンチを設定し、石垣基礎部の構造の確認を行った。その結果3箇所とも現地地表下に根石や胴木の存在は確認できず、出土遺物や堆積の状況から推定される石垣の築造時期は幕末あるいは近代の可能性が高い。またA・C地点では、現地地表下30

～110cm程に新たな石垣の基底石または石材抜き取り跡が、裏込様の栗石の堆積層とともに確認できており現石垣に先行する遺構と考えられるが、これとても胴木等顕著な基礎構造は有していない。ちなみに、水門東側の植え込み地表部には鑿跡を有する花崗岩数個が残存しており、これと埋没石垣を同一のものと仮定すると1mほどの高さに復原できる。

C地点埋没石垣の栗石層中では17世紀まで遡りうる遺物として肥前系陶磁器、巴文軒丸瓦等数点が見られるが、出土遺物全体から判断すれば埋没石垣の築造時期は19世紀を下限としており築城の初期に絡むものではなさそうである。

本来三ノ丸の北側は直接瀬戸内海に面していたが、明治の初めから半ばの数次の埋め立てによって現在の国道およびフェリー埠頭部分が造成されていることから、北側石垣もこれに併せて積み直しあるいは積み足しをしたものと推定される。



第1図 遺跡の位置（「高松北部」）

(山本)



第2図 A地点埋没石垣検出状況



第3図 B地点後方の石積みの状況